
宇宙線研究者会議連絡誌

CRC 選挙 があります。

投票〆切は 4 月 10 日 (水) です。

この連絡誌の最後のページにある「投票用紙」で 郵送投票するか、または、
E-mail 会員は、3 月 28 日 (木) 頃に配信される「E-mail 投票用紙」で投票して下さい。

E-mail address をお持ちの会員で、最近「CRC News」の E-mail を受信
していない方は、事務局 (crcjimu@icrr.u-tokyo.ac.jp) へお知らせ下さい。

E-mail で「CRC News」を 毎週 1~3 回ほど配信しています。

CRC Homepage <http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/CRC/>

には、「速報」や「会員名簿」などがあります。ご利用ください。

会費は 郵便振替で お振込み頂くか、又は CRC 事務局へ 直接お渡し下さい。

郵便振替 口座番号 : 00280 - 3 - 70114

加入者名 : CRC 事務局

CRC 関連委員会報告・CRC 会報 等

開催日	記 事	CRC HP	ページ
1. 11月 9日	物理学研究連絡委員会議事録(第18期:第1回).....	速報-185	page- 6
2. 3月 21日	素核研(KEK)運営協議会報告	速報-181	page- 9
3. 3月 27日	平成12年度第4回CRC実行委員会議事要録	速報-183	page-10
4. 3月 28日	平成12年度第2回CRC総会議事要録	速報-186	page-15
5. 4月 11日	原子核専門委員会委員議事録(案)(第18期:第2回)	速報-190	page-25
6. 4月 19日	KEK 運協報告	速報-187	page-30
7. 5月 8日	平成13年度CRC選挙の開票結果	速報-191	page-32
8. 6月 12日	第24回KEK運協報告	速報-207	page-34
9. 7月 4日	日本物理学会領域代表者会議報告	速報-212	page-35
10. 7月 13日	平成13年度第1回CRC実行委員会議事要録	速報-227	page-36
11. 7月 30日	第2回(2001年度)宇宙線物理学奨励賞受賞候補者募集	速報-217	page-47
12. 9月 22日	平成13年度第2回CRC実行委員会議事要録	速報-265	page-49
13. 9月 23日	平成13年度第1回CRC総会議事要録	速報-265	page-50
14. 10月 11日	第25回KEK運協報告	速報-250	page-58
15. 11月 6日	原子核専門委員会報告	速報-248	page-60
16. 11月 26日	宇宙線研神岡施設の事故関係報告	速報-255	page-62
17. 11月 29日	宇宙線研神岡事故に関して	速報-256	page-63
18. 1月 22日	KEK素核研運協懇談会速報	速報-271	page-63
19. 1月 22日	素核研(KEK)運協報告	速報-280	page-64
20. 2月 13日	核専委・物研連に対する申し入れ事項	速報-281	page-65
21. 2月 22日	物研連報告(要旨速報).....	速報-285	page-65
22.	CRC選挙公示	page-67
23.	CRC選挙人名簿	page-68
24.	投票用紙(郵送用)	page-71

主な CRC 活動

- 4月 9日、 CRC 連絡誌 No.282、 & 速報 5号 発行郵送
- 4月 9日、 CRC 選挙公示 (10日; 推薦公募、16日; 推薦掲示板公開、
17日; メール選挙用紙配布、27日; 投票✓切)
- 5月 7日、 CRC 選挙開票
- 7月11日、 宮村修様御遺族様へ弔電
- 7月12日、 連絡誌 速報-6号 発行郵送
- 7月13日、 平成13年度第1回 CRC 実行委員会
- 7月30日、 第2回 (2001年度) 宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集
- 9月22日、 平成13年度第2回 CRC 実行委員会
- 9月23日、 平成13年度第1回 CRC 総会
- 10月24日、 連絡誌 速報-7号 発行郵送
- 11月17日、 第2回 (2001年度) 宇宙線物理学奨励賞選考委員会
- 2月 4日、 平成13年度第3回 CRC 実行委員会
- 2月13日、 連絡誌 速報-8号 発行郵送
- 3月 7日、 平成13年度第4回 CRC 実行委員会
- 随 時、 CRC News E-mail 配信

訃 報

平成13年7月10日、広島大学理学部教授 宮村 修 殿 が御逝去されました。
謹んで御冥福をお祈り致します。

平成13年9月25日、元大阪市立大学の 勝俣 五男 殿 が御逝去されました。
謹んで御冥福をお祈り致します。

この連絡誌に掲載していない「CRC News」の表題を、以下のページに列記しました。

「CRC Homepage の速報」を御覧下さい。
<http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/CRC/>

非メール会員の方は、「CRC 連絡誌 速報版」を御覧下さい。

CRC News – 「研究会」 –

配信日、	CRC HP	記事
4月11日、	速報-182	A Long Baseline Neutrino Oscillation Experiment Workshop
4月30日、	速報-189	第6回特定・宇宙ニュートリノ研究会
5月16日、	速報-193	Geant4 ユーザ会ワークショップ
5月21日、	速報-194	Particles and Nuclei International Conference
5月21日、	速報-195	Neutrino Factories based on Muon Storage Rings 2001 (NuFACT'01)
5月24日、	速報-196	最高エネルギー宇宙線 (E H E C R) の研究会
5月28日、	速報-197	最高エネルギー宇宙線 (E H E C R) 研究会
6月4日、	速報-198	The 5th KEK Topical Conference
6月4日、	速報-201	E H E C R 研究会 second circular
6月9日、	速報-202	特定・宇宙ニュートリノ第7回研究会のお知らせ、および講演募集
6月25日、	速報-205	宇宙ステーション利用計画ワークショップ
6月30日、	速報-210	高エネルギー宇宙物理連絡会 第2回研究会のお知らせ
7月12日、	速報-214	特定 (A) 「ニュートリノ振動とその起源の解明」研究成果発表会
7月25日、	速報-216	高エネルギー宇宙物理連絡会 第2回研究会
8月2日、	速報-221	Tamura International School on Neutrino Physics
9月10日、	速報-226	The first bulletin of Xenon01 Workshop
9月17日、	速報-230	ICRR 宇宙線共同利用成果発表会のお知らせ
9月19日、	速報-232	The first bulletin of NOON2001 Workshop
10月11日、	速報-237	特定・宇宙ニュートリノ第8回研究会
10月11日、	速報-238	Tamura International School on Neutrino Physics
10月22日、	速報-242	「大学と科学」公開シンポジウム
10月29日、	速報-244	BESS・折戸記念セミナー
11月3日、	速報-246	The second bulletin of Xenon01 Workshop
11月12日、	速報-249	The second bulletin of NOON2001 Workshop
11月22日、	速報-252	宇宙線研究所共同利用研究発表会
11月22日、	速報-253	高地での新たなガンマ線・宇宙線観測 研究会
11月26日、	速報-254	The XVI Particles and Nuclei International Conference
12月1日、	速報-257	「物質の起源」研究会
12月5日、	速報-258	宇宙線研究所シンポジウム「宇宙線物理学の明日を拓く」
12月6日、	速報-259	高地での新たなガンマ線・宇宙線観測研究会
12月6日、	速報-260	宇宙線研究所共同利用研究発表会
12月25日、	速報-262	「物質の起源」研究会アップデート
12月26日、	速報-264	第2回「TAMA シンポジウム」開催のお知らせ
1月8日、	速報-266	「高エネルギー宇宙の総合的理解」研究会
1月11日、	速報-268	第2回「TAMA シンポジウム」開催 (2nd Circ.)
1月16日、	速報-269	第3回 Geant4 研究会
1月21日、	速報-270	宇宙線研究所シンポジウム「宇宙線物理学の明日を拓く」
1月24日、	速報-272	宇宙線研究所シンポジウムのご案内
2月18日、	速報-282	First Sendai International Conference on Neutrino
2月22日、	速報-284	「高エネルギー宇宙の総合的理解」研究会
2月25日、	速報-287	名古屋大学 STE 研宇宙線研究会
2月25日、	速報-288	名古屋大学 STE 研宇宙線研究会 (2nd ver.)
2月26日、	速報-289	RCNP 研究会「中間エネルギー・イオンビームによる物理」
3月4日、	速報-290	XXI Texas Symposium on Relativistic Astrophysics

CRC News – 「公募」 –

4月4日、	速報-180	第3回高エネルギー物理学奨励賞 推薦及び応募
4月26日、	速報-188	千葉大学理学部物理学科助教授公募
6月4日、	速報-199	KEK COE 研究員公募
6月4日、	速報-200	KEK 非常勤研究員公募
6月11日、	速報-203	KEK・加速器 教授公募
6月11日、	速報-204	KEK・加速器 助手公募
6月21日、	速報-208	東京都立大学物理教授公募
7月25日、	速報-215	KEK 加速器・助手 / COE 公募締切迫る
7月30日、	速報-217	第2回(2001年度)宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集
7月30日、	速報-218	東京大学宇宙線研究所教官公募
7月31日、	速報-220	大阪市立大学理学数物系教授公募
8月8日、	速報-222	立教大学理学部物理学科教員公募
8月8日、	速報-223	立教大学理学部物理学科(理論)教員公募
8月29日、	速報-224	KEK 加速器助教授公募3件(01-4,5,6)
9月3日、	速報-225	山形大学理学部物理学科教官公募
9月14日、	速報-228	東大物性研 加速器助手公募(締切迫る)
9月19日、	速報-233	特定領域A「重力波研究の新しい展開」の公募研究募集
9月26日、	速報-234	特定領域A「ニュートリノ振動とその起源の解明」公募研究募集
10月22日、	速報-239	KEK 加速器研究施設 COE 研究員公募
10月22日、	速報-240	KEK 加速器研究施設 助手公募
10月29日、	速報-245	理化学研究所・研究員公募
11月6日、	速報-247	東京大学大学院理学系研究科物理学教室教官公募
11月12日、	速報-251	KEK 教官・研究員公募
2月4日、	速報-274	KEK 加速器研究施設人事公募3件
2月5日、	速報-276	KEK・素粒子原子核研究所教官公募3件
2月7日、	速報-277	神奈川大学物理学教室研究員公募
2月7日、	速報-278	東京大学宇宙線研究所学術研究支援員の公募
2月7日、	速報-279	第4回(2002年度)高エネルギー物理学奨励賞 推薦及び応募
2月23日、	速報-286	Leeds 大学ポスドク募集

CRC News – 「その他のお知らせ」 –

- 4月16日、速報-184 2001年度CRC選挙 推薦掲示板公開
- 4月24日、CRC選挙の投票呼びかけ
- 4月26日、CRC選挙の投票呼びかけ
- 5月14日、速報-192 「CRC会員名簿」更新のお知らせ
- 6月12日、速報-205 ICRR ニュース最新号(45号)のお知らせ
- 6月19日、速報-206 宇宙線研・柏間の高速バス運行のお知らせ
- 7月2日、速報-211 Bファクトリーの性能向上について
- 7月10日、速報-213 訃報：宮村 修 教授 ご逝去
- 7月31日、速報-219 乗鞍観測所の電話(Fax)番号変更のお知らせ
- 9月14日、速報-229 ICRR ニュース 46号(オンライン版)のお知らせ
- 9月17日、速報-231 <会報>CRC総会のご案内
- 10月1日、速報-235 科研費「系・部・分科・細目表」の見直しに関する情報
- 10月10日、速報-236 訃報：勝俣五男 様 ご逝去
- 10月22日、速報-241 平成14年度気球観測募集について
- 10月24日、速報-243 物理学会・シンポジウムのお知らせ
- 12月19日、速報-261 KEK 陽子加速器の運転スケジュール変更案内
- 12月26日、速報-263 ICRR ニュース 47号のお知らせ
- 1月10日、速報-267 平成14年度夏前のKEK 12GeV PSの運転等について
- 1月31日、速報-273 物理学会託児室設置のお知らせ
- 2月5日、速報-275 平成14年度夏前のKEK 12GeV PSの運転等について
- 2月19日、速報-283 訃報；ドブローチン先生(ロシア)御逝去

***** < 物理学研究連絡委員会議事録 (第 18 期 : 第 1 回) > *****

— < 2000/11/21 に配信した CRC News No.205 は 案で、これが最終だそうです。 > —

日 時 : 平成 12 年 11 月 9 日 (水) 10:00 ~ 12:00、13:30 ~ 17:00

場 所 : 日本学術会議 大会議会議室 (午前)、2 階会議室 (午後)

配付資料

第 18 期物理学研究連絡委員会委員名簿 (末尾に掲載)

日本学術会議第 18 期活動計画

日本学術会議世話担当別研究連絡委員会一覧

日本学術会議第 4 部会員名簿

平成 15 年度日本学術会議共同主催国際会議の募集について

公開講演会「社会における科学アカデミーの役割と今後の展望」(学術会議主催)

出席者

IUPAP : 安岡、郷、潮田、三浦

原子核 : 土岐、大塚、吉村、小林(誠)、村木、木舟、福島、佐藤(文)、駒宮、黒川、大島、
近藤、高崎、武田、永宮

物性 : 安藤(恒)、小林(俊)、佐藤(正)、松下、鈴木、水崎、後藤、中村、太田、張

物理学一般 : 江尻、松島、江沢、奥野、柳下、若谷、黒田、西川、渡辺、兵頭

議長 佐藤(文)

1 : 委員長及び幹事の選出

委員長 佐藤文隆

幹事 高崎史彦(原子核)、安藤恒也(物性)、兵頭俊夫(一般)

2 : 18 期物研連について

研連立ち上げの世話人会員であった佐藤から各専門委員名簿作成の経過が報告された。

IUPAP 委員の数と専門委員会定数の間に大きなギャップがあることに問題があり、次期には定数の変更も考慮した方がいいとの発言もあった。

担当事務局職員である鈴木篤、中野靖子の両氏が紹介された。

3 : 諸報告

3-1 : IUPAP 専門委員会報告 (報告者 : 安岡)

1) 委員長 : 安岡弘志、幹事 : 北原和夫

2) 学術会議主催の国際会議提案について

統計物理国際会議 (2004 年 : 神戸) が提案され推薦することとした。

永宮委員から原子核国際会議 (2004 年) を検討中との発言があった。

3) ICFNS の日本での開催

11 月 5、6 日、東海村で ICFNS の国際シンポがあった。ICFNS は IUPAP のワーキンググループの一つで中性子源施設に関する問題を扱っている。(加速器の ICFA に対応)

4) IUPAP 主催 Women in Physics 2002 (パリ) について検討した。

3-2 : 原子核専門委員会 (報告者 : 高崎)

1) 委員長 : 矢崎紘一、幹事 : 二宮正夫、村木 纒、高崎史彦、今井憲一 (高崎は物研連の幹事も兼ねる。)

2) 各共同利用研究所 (基研、宇宙線研、KEK、核物理センター)、各グループ (素粒子論、CRC、

原子核、高エネルギー)及び原研・KEK 統合計画の報告。

- 3) 科研費の審査委員候補者推薦依頼学会については昨年通りとする。
- 4) 今期の活動として次の二つの問題を重点的に取り上げる
 - ・独立行政法人化及び省庁再編に伴う共同利用研のあり方や影響
 - ・文部省以外の他省庁や法人の施設の共同利用などについて調査、検討

3-3: 物性専門委員会(報告者: 小林)

- 1) 委員長: 小林俊一、幹事: 菅 滋正、前川禎通、福山秀敏: 物研連の幹事は安藤恒也
- 2) 委員の補充について
 - 欠員2名の内、一人を下村 理氏、残り1名は応物研連からの推薦とする。
- 3) 科研費の審査委員候補者推薦依頼学会については昨年通りとする。
- 4) 物性研究所からの委員推薦依頼について討議した。

3-4: 物理学一般専門委員会(報告者: 江沢)

- 1) 委員長: 江沢 洋、幹事: 柳下 明、覧具博義: 物研連の幹事は兵頭俊夫
- 2) 委員の補充について
 - 欠員2名の補充は分野を「流体力学」と「科学史」とし、人選を行う。
- 3) 科研費の審査委員候補者推薦依頼学会については更に検討する。
- 4) 物理教育小委員会について検討し、その継続を全体会議に提案することにした。

3-5: 学術会議(佐藤)

会員推薦に關与する全学協会の全構成員数は約70万人、学術会議会員は210名(女性7名)、7部に分かれ、理学は第四部である。物理科学会員推薦委員会で選出される会員枠は6名で、うち一名は天文学で占めている。

物理学では江沢、郷が再選され、小林、佐藤、米沢が新しく会員に選ばれた。

第18期は7月下旬に発足し、会長には吉川弘之(放送大学長)が再選され、副会長には吉田民人(中央大学文学部教授)、黒川 清(東海大学医学部長)の各氏が選出された。第四部では部長大瀧仁志、副部長 土居範久、幹事 岩槻邦男、郷 信広を選出。これまで総会と連合部会が各二回開かれ、10月末に活動計画を決定した。配付資料「日本学術会議第18期活動計画」を参照。吉川会長の強い意向で、「俯瞰的な視野にたった研究の推進」を大きな柱とし、2つの課題、

1) 人類的課題の解決のための日本計画の提案 (Japan Perspectives)、

2) 学術の状況ならびに学術と社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案、に取り組む。常置委員会、特別委員会もこの課題に向けた構成になっている。前期から、学術会議の存続を含めた厳しい議論があり、自己変革と新たなビジョンを打ち立てることが必要であるとの認識のもとに、この「活動計画」が作られた。学術会議全体の活動を知るために月刊誌「学術の動向」の購読を勧める。現在、学術会議は総理府所属であるが、省庁再編直後は総務省所属となり内閣府に置かれる総合科学技術会議で改廃、所属省庁等が審議されることになっている。

17期、学術会議はアジア学術会議を創設、昨年はインターアカデミー国際会議を東京で開催した。アカデミーをテーマにした公開講演会開催や世界の科学アカデミーの調査などの活動を活発に行っており、将来のあり方を指向している様にも見える。佐藤の報告後、郷、江沢、小林から補足の発言があった。

4. 議題

4-1: 前回議事録の承認

特に意見はなく、承認された。

4-2：平成14年度科研費委員推薦について

細目等の見直しの調査があったが、変更希望は出さなかった。委員候補推薦依頼学会については、原子核、物性、物理学一般の各専門委員会で検討した結論によって行うこととした。平成14年度の審査委員候補者の推薦については、2月に候補者の推薦依頼、3月に現委員の公開、5月末に推薦候補者名簿の提出となる予定。「物理学」の委員候補者推薦の関連研連として、平成13年度から、物研連以外に電波科学研連と宇宙空間科学研連が希望して入っている。物研連はこれら関連研連の「窓口研連」という位置付けであるが、これを問題視する発言が多く出された。物研連として今年の経緯を調べ委員長が対応する。

4-3：物性研究所委員の推薦について

人事選考協議会に前川禎通(東北大・金研)、十倉好紀(東大・工)の両氏を推薦。共同利用施設専門委員会に酒井治(都立大・理)、後藤輝孝(新潟大・理)、矢ヶ崎克馬(琉球大・理)、宇田川眞行(広島大・総合科学)、熊谷健一(北大・理)、佐藤英行(都立大・理)、高柳邦夫(東工大・総合理工)の各氏を推薦。

4-4：国際会議派遣申請について

各専門委員会で希望を募り、IUPAP 専門委員会と物研連委員長で調整して決める。
×切は12月1日、推薦枠は実績による。

4-5：Women in Physics 2002(パリ)について

IUPAPの女性物理学者問題のWorking group 委員(10名)に日本から機関を代表する男性科学者の推薦依頼があり、物性研所長の福山氏を推薦し、福山氏が現在、同Working group 委員になっている。同委員会は、Women in Physics 2002(パリ)の開催を計画し、物研連宛に代表派遣の要請がきている。日本物理学会にも要請がきているので、協議して、日本から合計3~4名の代表派遣を実現するべく努力することとした。

4-6：物理教育小委員会の継続について

前期末に報告書をまとめたが、今期、この小委員会を継続して活動したいとの提案があり了承された。窓口は覧具、兵頭、村木。学術会議での「環境・教育」報告書、日本物理学会や理学系学会連合での取り組みとの関連等について意見が出された。

4-7：学術会議主催の国際会議の推薦

毎年12月末が×切。2003年宇宙線国際会議を今回申請。2004年については統計物理国際会議(7月24~30日、神戸)の推薦を研連として決定した。
原子核国際会議については正式提案を待って次回に検討。

5：今期の取り組みについて

「18期活動方針」や物研連の活動について意見交換を行った。

・省庁再編と共同利用研究のあり方について

文部省以外の省庁や特殊法人の研究施設の共同利用の実態などを調査し、提言などをまとめる方向で検討を進めることとした。SPring 8、理研、NASDA、原研などについて資料を収集することから始めて、次回以降検討する。

・IPAPについて

現在、アメリカとヨーロッパの研究誌が研究発表の機会を独占している。この面で日本の存在感を高めるために日本物理学会と日本応用物理学会で2000年夏にIPAP(Institute of pure and applied Physics)をつくり努力しているが、様々な困難がある。学術会議でも取り上げるべきである。

・若手研究者の養成について

学問の発展に若手研究者は重要であるが、同時にその適正な数についても検討すべきである

・科学技術会議において、「ゲノム計画」の様に、重点計画として取り上げられると巨額の研究費がうごく。こういう具体的な課題にも取り組むべきである。

第18期物理学研究連絡委員会委員名簿

原子核専門委員会(定数25)

二宮正夫、土岐 博、大塚孝治、池田清美、吉村太彦、小林 誠、矢崎紘一、村木 綏、
坂田通徳、木舟 正、福島正己、佐藤文隆、駒宮幸男、黒川真一、大島隆義、近藤敬比古、
高崎史彦、武田 廣、今井憲一、永井泰樹、石原正泰、酒井英行、森 義治、谷畑勇夫、
永宮正治

物性専門委員会(定数21:今回19発令)

安藤恒也、前川禎通、秋光 純、小林俊一、佐藤正俊、松下 正、鈴木治彦、米沢富美子、
菅 滋正、水崎隆雄、後藤輝孝、福山秀敏、中村新男、太田 仁、高畠敏郎、張紀久夫、
西田信彦、倉本義夫、大貫惇睦

物理学一般専門委員会(定数17:今回15発令)

江尻有郷、松島房和、山崎泰規、江沢 洋、奥野和彦、柳下 明、犬竹正明、多田邦雄、
加藤義章、若谷誠宏、覧具博儀、黒田成俊、西川恭治、渡辺信一、兵頭俊夫

IUPAP 専門委員会(定数12)

安岡弘志、安藤 健、郷 信広、潮田資勝、盛永篤郎、戸塚洋二、山崎敏光、山田作衛、
北原和夫、三浦 登、小山勝二、高田俊和

IUPAP 専門委員会出席者および合わせて出席するもう一つの専門委員会

安岡弘志、北原和夫、福山秀敏、三浦 登、安藤 健、高田俊和、潮田資勝(以上物性)、
山田作衛、永宮正治、戸塚洋二、小山勝二(以上原子核)、盛永篤郎、山崎敏光、
黒田成俊、兵頭俊夫、郷 信広、犬竹正明、覧具博儀、山崎泰規(以上一般)

CRC Homepage 速報-181, CRC News No.237; 2001年04月04日配信

***** < 素核研(KEK)運営協議会報告 > *****
(文責 村木 綏)

日 時 : 2001年3月21日 13:30~16:30

報告事項

菅原機構長報告 : 独法化について。文科省の四つある検討委員会の一つ、

- * 業務組織委員会では大学関係者3人が原案を提示した。
教育と運営は一体である。(旧来通り)学長、副学長、評議員会を設置しそれを最高機関とするという案。この案に対して私学関係者、企業関係者から閉じた大学の形態であると強い反発があった。文科省で案を作ることになった。財務関係。交付金を大学がもらい、それで運営していく案が検討されている。大学の財産をどう配分するのかが問題。地方大学からスタートラインで差が付けられるのは困るというクレームが出ている。
- * 共同利用研所長懇談会の中にも対応する四部会ができています。3月15日全体の懇談会が開かれた。共同利用研は管理運営組織はオープンになっている。今まで通りでよい。
- * 目標計画評価部会からは、中期目標は長期目標に基づいて実施すべきであるとの見解が出ている。最終的には文部科学省の承認を得て実施する。新しいことは判断するのが難しい。多元的評価ができる制度を作っていく。評価の取扱。それを参考にして資源配分する。長期的視野に立った判断で実施すべきである。
- * 財務関係部会では施設費と運営費に大きく分けられる。運営費は基盤的経費と評価対象型経費に分けられる。大学の中のプロジェクト研究は別途予算として欲しい。大学共同利用機関の共同研究経費や、調査研究経費も基盤に入れるべきだとの意見が出ている。運営費は物件費、人件費は区分しても細目は規制しないでもらいたい。省庁の枠を超えた組織を

作って欲しい。Research council を参考にした。

山田所長報告：

- * 共同開発研究申請課題の採択課題の報告があった。申請件数 48 件、内、素粒子・原子核関係 10 件中 8 件を認めた。
- * 主幹会議で電子サイクロトロン、SF サイクロトロン審査委員会の規則を廃止した。
- * CERN、DESY の近況について。
CERN では将来計画の検討の一環として、J.Ellis らを中心とする理論的考察の議論があった。LHC は輝度を 10 倍にするとどうい物理ができるかを検討している。電磁石を変えてエネルギーを倍増させることも考えている。LEP の超電空洞がフリーになったので、それを利用して proton linac を作り PS-SPS に入れることを考えている。muon collider の R & D をやる。LHC は一年遅れて 2006 年夏に稼働の予定。DESY では TESLA のコロキウムがあった。ドイツ政府は TESLA 計画をこの一年間で評価して、国際的コンセンサスが得られるなら計画をスタートしたいとの考え。外国に 1/2 の予算を期待。

研究活動報告：

- * ニュートリノ (中村健)：順調に稼働している。ビーム強度はこれ以上上がらない。今年のランで 2×10^{19} protons on target。昨年と合わせて 4×10^{19} となる。
Physics Letter に論文を投稿した。
- * 加速器 (黒川)：KEKB の輝度が $3 \times 10^{33}/\text{cm}^2/\text{秒}$ に達した。
SLAC の 10 月末の一番良い値に追いついた。
- * 共通系 (近藤)：放射線に対する基準が改定になったのでそれに伴う教育訓練を実施した。
30mSV/年が 20mSV/年になった。(ICRP 1990 年勧告)。統合計画に関わる第一回計算ネットワーク研究会を開いた。LHC 用の電磁石の低温試験を実施した。
- * JHF (永宮)：Linac の建設が始まった。H14 年度概算要求をしないといけない。施設関係を立ち上げる。ニュートリノラインを早く立ち上げたいが、来年度は無理？ 4 月 1 日から本格的建設体制の下で作業を始める。運営会議は KEK と原研の両方から主な人が集まって開く。利用者協議会で user の声を聞く。外国の産業界の user も含める。3 月 15 日の合同協議会で協定案が認められた。4 月 15 日運営会議の人名が決まる。現地宿地区の住民は保存林を切ることに反対している。JHF 側は 75 % 回復させることを考慮している。東海村特別委員会から建設 OK の解答を 6 月までには得たい。

協議事項

- * 客員教官として久野 (阪大)、中西 (名大)、竹下 (信大)、米谷 (東大)、黒田 (明治大)、山中 (阪大)、田中 (長崎科学大)、笹尾 (京大)、原 (神戸大)、谷森 (京大) を所長に推薦した。
- * 助手候補として後田裕氏と金子隆志氏を所長に推薦した。

CRC Homepage 速報-183 , CRC News No.239 ; 2001 年 04 月 12 日配信

***** < 平成 12 年度第 4 回 CRC 実行委員会議事要録 > *****

日 時：平成 13 年 3 月 27 日 17 時 30 分より 19 時 40 分

場 所：中央大学 日本物理学会 SD 会場

出席者：坂田通徳 (甲南大：委員長)、谷森 達 (京大)、梶田隆章 (ICRR)、神田展行 (宮城教育大)、
神田展行 (宮城教育大)、手嶋政廣 (ICRR)、水谷興平 (埼玉大)、西嶋恭司 (東海大)、
村木 綏 (名大 STE 研)、(以上委員) 井上直也 (埼玉大事務局)、林田直明 (ICRR 事務局)

(1) 諸報告

事務局（林田）

(a) CRC News メール配信（前回2月10日実行委員会以降）

公募案内；1件

研究会案内；5件

その他のお知らせ；6件

（以上の詳細は資料1をご参照下さい。）

(b) 平成12年度CRC会計収支報告・会計監査報告

（平成13年3月22日現在、会計：宇宙線研 林田直明）

収入；

前年度繰越	1,014,825	円
会費（現金68,000 + 振込521,90）	589,910	

収入合計	1,604,735	円
------	-----------	---

支出；

連絡誌（No.280,281,速報1-4号）	380,662	円
実行委員会旅費（第1回,第3回）	212,756	
奨励賞選考委員会旅費（12/16）	15,520	
印鑑、スタンプ等（12/19）	37,422	
録音器、マイク（2/10）	42,903	
事務経費（文房具、切手等）	22,203	
奨励賞賞金（2名）	200,000	

支出合計	911,466	円
------	---------	---

収支残高	693,269	円
------	---------	---

=====
上記の通り、適正に処理されていることを認めます。

平成13年3月22日

会計監査 山本 嘉昭（甲南大） 西嶋 恭司（東海大）

=====
以上の会計報告が認められた。

(c) 選挙

(1) CRC 実行委員会 委員長・委員 選挙

(2) 宇宙線研共同利用実施専門委 所外委員推薦候補者 選挙

(3) 日程；4月 9日（月）：公示（連絡誌郵送 + メール連絡）

16日（月）：メール投票用紙配信

27日（金）：投票〆切

以上の選挙実施と日程が認められた。

宇宙線研共同利用運営委員会（坂田）

(a) COE 研究員の決定

(b) 宇宙線研研究員の決定

(c) 来年度共同利用予算配分を早く行うことを予定している。

(2) 入会希望者 事務局宛に以下の方々の入会希望が寄せられた。

	(所属 身分)	(分 野)	(推 薦 者)
川田 和正	(甲南大 新 D 2)	Tibet	山本嘉昭、坂田通徳
田中 秀樹	(大阪市大 新 D 2)	Ooty, CERN	林 嘉夫、川上三郎
野中 敏幸	(大阪市大 新 D 1)	Ooty, 明野	林 嘉夫、川上三郎
野崎 光昭	(神戸大 教授)	加速器, BESS	佐々木真人、福島正己
眞子 直弘	(東大 新 D 1)	T A	佐々木真人、福島正己
有働 慈治	(埼玉大 新 D 1)	Tibet	堀田直己、水谷興平
小澤 俊介	(宇都宮大 新 D 2)	Tibet	堀田直己、大西宗博
石塚 正基	(東大 新 D 1)	神岡	梶田隆章、金行健治
土屋 晴文	(宇宙線研 COE 研究員)	Tibet	村木 綏、松原 豊
間瀬 圭一	(宇宙線研 新 D 1)	T A	手嶋政廣、福島正己

研究歴などが紹介され、全員の入会が承認された。詳細は、(資料2)をご参照下さい。

(3) 退会者

2名の退会を承認した。

(4) OB・OG 会員制について

前回の実行委員会でもとめた案を再検討し、以下のように修正加筆し、原案を作成した。同案は CRC 総会で承認を得、2000 年度より適用することとした。

- (a) 名称は「OB・OG 会員」とする。
- (b) 65 歳以上で、かつそれまでの CRC 会員年数が 15 年以上の会員が CRC からの退会申し出を行ったとき、OB・OG 会員への移行をお願いする。
- (c) その他、(b) の項において 15 年以上の会員歴がない場合でも実行委員会の推薦により、OB・OG 会員への移行をお願いすることができる。
- (d) 機関の定年年齢が 60 歳～64 歳の会員については退会の申し出があった時、実行委員会の推薦により、OB・OG 会員への移行をお願いすることができる。
- (e) 選挙権、CRC 総会における票決権はなしとする。
- (f) 連絡誌などの CRC 関連情報を提供する。
- (g) 会費はいただかない。
- (h) 2000 年度よりこれを適用する。

2000 年度退会者について、この要項に当てはまる場合、個別に OB・OG 会員への移行についての意向を伺うことにした。また、通信会員 3 名の内、若い方が 1 名いることもあり、通信会員制度は残すこととした。

(5) 2003 年第 28 回宇宙線国際会議(梶田)

学術会議の主催としての開催の承認は得られなかった。後援は OK だろう。この結果、1000 万円ほどの見込額減となり、今後積極的に財源確保のための活動を行っていく。また、具体的なプラン策定のため、準備委員会を中心として活動を強めていく予定。

(6) CRC 関連大学の活性化について(神田)

各大学の動向調査(アンケート)についてその調査内容案の紹介があった。

宇宙線研究者用のポストがあるか。
スタッフ数・学生数。
海外からの客員数。
宇宙線研究志願者数(学生)。

海外への客員数（ポストを得て）。

それについて以下の意見があり、

”第2項目の学生数については学部生と院生をわけて調査すべき。”

”外部研究費についての調査も併せてしたらどうか。”

更に意見を募り、最終案を作成することにした。

(7) CRC 選挙について

実行委員の年齢構成等の議論に基づき、次回の CRC 実行委員長・実行委員選挙公示に際し、以下の呼びかけ文を付記する事にした。

適正な年齢構成を実現するため「若い人」を選んで頂けることを期待します。

自ら立てた計画の遂行に責任の持てる年齢の方が望ましい。

選挙を盛んにするために、会員間で推薦をすることも歓迎する。

また、会員間の推薦を定まった形式で行うため、被推薦者名の受付を ICRR・CRC 事務局が行うことにした。推薦表記入項目は

推薦者名

被推薦者名：実行委員長（推薦数：1名以内） 実行委員（推薦数：6名以内）

公示と共に同件についての案内を出し（被推薦者以外の人に投票してもいいことを付記し）その推薦の締め切りは4月15日とする。寄せられた推薦票は4月16日にCRCホームページに掲載する。また、実施に際し、以下の点を了承した。

受付はメールに限る（推薦者の持つメールアドレスからの送信のみ受け付ける）。

推薦者は個人のみに限る。

推薦理由欄は推薦票に設けない。

推薦票の発表に際し、CRC 会員にメールで「被推薦者名簿がCRCホームページに出ています。ご参考にしてください。また、メールアドレスをお持ちでない方にはお伝えください」旨の案内をおくる。

また、今回同時に行われる ICRR 共同利用研究実施専門委員（所外委員）選挙についても同様な推薦受付を行う。

(8) CRC 実行委員の任期について

任期の2年化については、CRC 総会での決議が必要なため、来年度更に検討し、再来年度の選挙時に実施に移せるようにする。

(9) 高宇連と宇宙線物理学奨励賞

高宇連より「奨励賞に類するものを新たに実施したいと考えているが、当面は本年度から始まった宇宙線物理学奨励賞への応募を行って行きたい」との意向が寄せられた。応募について問題はないだろうが、同審査委員の選出に検討を要するかもしれない、との指摘があった。

(10) CRC 総会（3/28）準備に関して

CRC 総会議長の推薦

谷森 達（京大）を推薦することとした。

宇宙線物理学奨励賞授与式次第について

奨励賞応募受付から審査過程の報告

受賞者紹介・受賞理由の説明。
賞状授与・記念写真撮影

=====
(資料 1)

- 2/20 : 太陽圏シンポ & 太陽圏外圏の光学的手法による研究会
- 2/20 : <会報> 物理学会の代議員候補者の推薦に関して
- 2/23 : 27th ICRC (2001 Hamburg)
- 2/27 : 最高エネルギー宇宙線 国際ワークショップ
- 3/01 : 訃報 : 小田稔先生ご逝去
- 3/01 : 理化学研究所研究員公募
- 3/05 : 2001 IEEE Nuclear Science Sympo. and Medical Imaging Conf.
- 3/08 : 物理学会プログラムの訂正
- 3/09 : <会報> 平成 12 年度第 3 回 CRC 実行委員会議事要録
- 3/12 : 物理-天文-地球物理 合同セミナー
- 3/12 : 日本における次世代の長基線ニュートリノ振動実験ワークショップ
- 3/21 : CRC 総会開催のお知らせ

=====
(資料 2) : 新入会員 (2001.03.27)

川田 和正 (甲南大 新 D 2) 推薦者 ; 山本嘉昭、坂田通徳
(研究歴) : チベットグループの一員として 3 年間研究に参加し、チベットで装置の増設、調整及び較正データの取得に携わってきた。最高エネルギー宇宙線の到来方向から TeV ガンマ線が届いていないか、データを解析した結果、有意とは言えないまでも、3 の excess を示すものが有り、物理学会で報告した。 昨年 から ADC データを TDC 回路を通して記録する新回路に挑戦し、来年夏に全装置に装着する予定。

田中 秀樹 (大阪市大 新 D 2) 推薦者 ; 林嘉夫、川上三郎
(研究歴) : ウーティ空気シャワー観測、明野レッドバーガー実験、セルン L3+C 実験 (空気シャワー高エネルギーミュオンの観測) などに参加し、計 4 年間空気シャワーの研究に専念してきた。この間ウーティやセルンに滞在し研究を行っており、昨年、物理学会で発表した。

野中 敏幸 (大阪市大 新 D 1) 推薦者 ; 林嘉夫、川上三郎
(研究歴) : ウーティ空気シャワー観測、明野レッドバーガー実験などに参加し、前期博士課程の 2 年間で空気シャワーの研究に専念してきた。この間、インドのウーティに滞在し研究を行っており、今回の物理学会において発表する予定。

野崎 光昭 (神戸大 教授) 推薦者 ; 佐々木真人、福島正己
(研究歴) : 1982-1984 : JADE@PETRA に参加し、電子陽電子衝突実験
1982-1987 : 神岡鉱山内でモノポール等超重粒子の探索実験
1983-1992 : OPAL@LEP の建設と電子陽電子衝突実験
1987-現在 : BESS 測定器の開発・建設と宇宙線の研究
1992-現在 : ATLAS@LHC 用測定器の開発と建設

眞子 直弘 (東大 新 D 1) 推薦者 ; 佐々木真人、福島正己
(研究歴) : TA のフロントエレキ開発。特に信号変換・認識用のデジタル信号処理プログラム開発。TA 用の現地での夜光バックグランド測定。TA を用いた AGN ニュートリノ検出の可能性のシミュレーションによる調査。HiRes のオフラインデータ処理。

有働 慈治 (埼玉大 新 D 1) 推薦者 ; 堀田直己、水谷興平

(研究歴) : 大学在学中(4年次生)よりチベットでの空気シャワー観測装置とエマルジョンチェンバーの連動実験によるデータ解析に参加。博士前期課程では、チベットでの装置の維持運転にも参加すると共に、連動実験のデータを解析して宇宙線陽子成分強度を測定し修士論文を作成。現在、宇宙線強度の恒星時変動の観測準備中。

小澤 俊介(宇都宮大、新D2) 推薦者; 堀田直己、大西宗博

(研究歴) : 修士1年からチベットグループに所属し、過去2回現地に出張し装置の建設、メンテナンスに携わった。現在チベット空気シャワー観測装置のデータを用いて、Knee領域の全粒子スペクトルを求める解析を担当している。また、モンテカルロシミュレーションも精力的に行っている。2001年春の物理学会でKnee領域の全粒子スペクトルを発表予定。

石塚 正基(東大 新D1) 推薦者; 梶田隆章、金行健治

(研究歴) : 修士課程入学と同時に、スーパーカミオカンデグループに属して、宇宙ニュートリノの研究を行ってきた。また特に低エネルギー太陽ニュートリノ実験の基礎研究も行ってきた。

土屋 晴文(宇宙線研 COE 研究員) 推薦者; 村木 綏、松原 豊

(研究歴) : 名大STE研で、主に太陽中性子の観測を行ってきた。Tibet 中性子望遠鏡でフレアーに伴う中性子を見つけて、学位を完成させた。4月1日より宇宙線研研究員になる予定。

間瀬 圭一(宇宙線研 新D1) 推薦者; 手嶋政廣、福島正己

(研究歴) : GUT エネルギースケールのコズミックストリングの探索を、SDSS、スバルのデータを使って行ってきた。現在 TA-Optics の開発、キャリブレーション、AGASA のデータ解析も行っている。

CRC Homepage 速報-186 , CRC News No.243 ; 2001年04月24日配信

***** < 平成12年度第2回CRC総会 議事要録 > *****

日 時 : 2001年3月28日 午後5時30分より午後7時15分まで

場 所 : 日本物理学会 中央大学 SA会場

出席者 : (敬称略) 谷森 達(京大理)、中畑雅行(宇宙線研)、鈴木洋一郎(宇宙線研)、吉村太彦(東北大理)、山田秀衛(宇宙線研)、森 正樹(宇宙線研)、増田公明(名大STE研)、中瀬友和(東海大)、西嶋恭司(東海大理)、土屋兼一(宇宙線研)、榎本良治(宇宙線研)、片桐秀明(宇宙線研)、鈴木理映子(宇宙線研)、伊藤千枝(茨城大)、松岡 勝(NASDA)、梶田隆章(宇宙線研)、柴田 徹(青学大理工)、林田直明(宇宙線研)、坂田通徳(甲南大理)、福島正己(宇宙線研)、水谷興平(埼玉大理)、山本嘉昭(甲南大理)、野上謙一(獨協医大)、川田和正(甲南大理)、塩見昌司(宇宙線研)、堀田直己(宇都宮大)、大橋英雄(東京水産大)、身内賢太郎(東大理)、斎藤敏治(都立航空高専)、綾部俊二(埼玉大理)、佐々木孝雄(早大)、大西宗博(宇宙線研)、吉田 滋(宇宙線研)、吉越貴紀(大阪市大理)、松原 豊(名大STE研)、櫛田淳子(東工大理)、柴田祥一(中部大工)、小島浩司(名古屋女子大家政)、有働慈治(埼玉大理)、小沢俊介(宇都宮大工)、黒田和明(宇宙線研)、手嶋政廣(宇宙線研)、南條宏筆(弘前大)、佐々木真人(宇宙線研)、土屋晴文(名大STE研)、倉又秀一(弘前大)、眞子直弘(宇宙線研)、湯田利典(名大STE研)、井上直也(埼玉大)、神田展行(宮城教育大)、三浦 真(宇宙線研)、安野志津子(愛知淑徳大)、市村雅一(弘前大)、晴山 慎(青学大)、柳田昭平(茨城大理)、村木 綏(名大STE研)、吉田龍生(茨城大理)、日比野欣也(神奈川大)、荻尾彰一(東工大)、宮澤千裕(茨城大理)、高島美弥子(甲南大理)、内堀幸夫(放医研)、さこ隆志(名大STE研) 以上、63名

第1回宇宙線物理学奨励賞授与式

受賞者：奥村公宏(宇宙線研・COE 研究員)、竹田成宏(宇宙線研・学振奨励研究員) 両氏を壇上に迎え、奨励賞審査経過、受賞者紹介、受賞理由の報告(CRC 実行委員長)の後、受賞者に賞状・賞金の授与を行い、記念写真撮影の後、総会参加者の拍手と共に式を閉会した。

議長選出

実行委員会からの推薦として、谷森氏(京大)が推薦され、それを了承した。

(1) 諸報告

報告1．CRC 事務局(水谷)

宇宙線物理学奨励賞応募受付事務を行った。

報告2．CRC 事務局宇宙線研支部(林田)

(a) CRC 活動

- (1) 9月23日：平成12年度第1回CRC総会
- (2) 11月21日：非E-mail会員へ連絡誌-速報-3号発行郵送(61通)
- (3) 12月16日：第1回宇宙線物理学奨励賞選考委員会
- (4) 1月25日：非E-mail会員へ連絡誌-速報-4号発行郵送(60通)
- (5) 2月10日：平成12年度第3回CRC実行委員会
- (6) 3月27日：平成12年度第4回CRC実行委員会
- (7) 3月28日：第1回宇宙線物理学奨励賞授与式
- (8) 3月28日：平成12年度第2回CRC総会
- (9) 随時：CRC News メール配信(51件)

(b) 「CRC News」メール配信

委員会報告；8件

- 10月30日：宇宙線研共同利用運営委員会
- 10月31日：(会報)平成12年度第2回CRC実行委員会
- 11月21日：原子核専門委員会
- 11月21日：物理学研究連絡委員会
- 11月27日：KEK 運協
- 11月27日：阪大核物理センター運協
- 1月05日：(会報)CRC総会
- 1月18日：(会報)第1回宇宙線物理学奨励賞受賞者発表
- 3月09日：(会報)平成12年度第3回CRC実行委員会

公募案内；12件(詳細は資料1をご参照下さい)

研究会案内；23件(詳細は資料1をご参照下さい)

その他のお知らせ；8件(詳細は資料1をご参照下さい)

(c) 平成 12 年度 CRC 会計収支報告・会計監査報告

(平成 13 年 3 月 22 日現在、会計：宇宙線研 林田直明)

収入；			
	前年度繰越	1,014,825	円
	会費 (現金 68,000 + 振込 521,90)	589,910	
	収入合計	1,604,735	円
支出；			
	連絡誌 (No.280,281, 速報 1-4 号)	380,662	円
	実行委員会旅費 (第 1 回, 第 3 回)	212,756	
	奨励賞選考委員会旅費 (12/16)	15,520	
	印鑑、スタンプ等 (12/19)	37,422	
	録音器、マイク (2/10)	42,903	
	事務経費 (文房具、切手等)	22,203	
	奨励賞賞金 (2 名)	200,000	
	支出合計	911,466	円
収支残高		693,269	円

=====
上記の通り、適正に処理されていることを認めます。

平成 13 年 3 月 22 日

会計監査 山本 嘉昭 (甲南大) 西嶋 恭司 (東海大)

=====
以上の会計報告が、実行委員会で認められた。

報告 3 . 宇宙線研究所 (黒田)

(a) 人事関係

次期所長：吉村太彦教授 (東北大学教授)

採用： 瀧田正人助教授 (エマルション)

河内明子助手 (CANGAROO)

伊藤好孝助教授 (神岡)

退官： 荒船次郎教授 (理論)

木舟 正教授 (CANGAROO)

石川文雄助手 (AGASA)

齋藤 威助手 (一次線) 2000.12.31 付

(b) 平成 14 年度文部科学省概算要求

引き続き「宇宙線望遠鏡計画」を要求していく予定。

(c) その他

平成 12 年 12 月 6 日の学術審議会総会において、特定研究領域推進分科会宇宙科学部会報告 (我が国における天文学研究の推進について) が了承され、その中で、「Telescope Array」計画は早急に実現に向けて推進すべき研究として、また「Large Scale Cryogenic Gravitational-wave Telescope」計画は、当面技術開発を強力に推進し早期の着手を目指す計画と位置づけられた。

国立大学法人化に向け、全国研究所長会議会長名で、附置研究所メンバーの国大協内の設置

形態検討特別委員会（法人化検討会議）へのオブザーバー参加を要望した。宇宙線研究所は今後、国立大学が法人化されても、全国共同利用機関としての役割を維持しなければならないと考えている。

報告 4 . 各研究プロジェクトの現状紹介

(a) T A (福島)

2000 年 11 月に学術審議会宇宙科学部会が「我が国における天文学研究の推進について」答申を行ったが（宇宙線研報告 (c) 第 1 項参照） T A 計画は天文台の A L M A 計画と並んで A カテゴリーに位置づけられた。これは「早急に実現にむけて推進すべき計画」である。また、2001 年 2 月に文部科学省によるヒヤリングがあり、以下の様な質問が出された。カッコ内はそれに対する回答。

技術的に建設準備ができているか？(Y E S)

建設サイトは確保されているか？(2002 年 4 月には O K 。)

米国共同研究者は強力か？(強力である。伝統・実績を持っている。)

AUGER との競争力は？(化学組成が宇宙線起源解明に重要。その点で T A は有利)

また、国内研究者数の不足を指摘され、それに対して新たに T A 計画参加者を募り、その数はほぼ 2 倍の 5 0 数名となった。CRC 総会では、この件について、実質的な参加人数についての指摘と各大学の関与についての質問があり、以下の様な説明があった。

R & D には多くの大学が参加している。

今後の建設・運用・物理的解析についても各大学の積極的関与は必須である。

建設における予算執行は、宇宙線研究所が主体になるだろう。

各参加研究者の貢献度はそれぞれの事情によって異なることは予想される。今後の研究の立案・実施の中で、各大学の visibility が現れることが期待できる。

積極的に更に参加し易いものにしていくべきと考える。

(b) CANGAROO (森)

5 年間の COE の 2 年目が終了。7m 鏡機 (γ 600GeV)、10m 鏡 1 号機 (γ 400GeV) による測定データの解析を行ってきている。10m 鏡 2 号機はミラー・エレクトロニクス・カメラの性能向上を図りつつ現在製作に当たっており、平成 13 年 1 2 月に完成予定。また平成 14 年度 2 月よりステレオ観測を開始する予定。

(c) 重力波 (黒田)

2005 年からの建設開始を目指している。三鷹 300m T A M A 実験は昨年より測定を開始しており (Phase 1)、更なる感度向上を目指している。今年の夏には 1000 時間の観測を予定。現在までに、T A M A で目標とした最終感度にまで達成できるめどが立ち、これにより、予算獲得要求を目指すための R & D はおおむね完了した。今後は解析の進行と合わせ、より進展させていく予定。

報告 5 . 2003 年第 28 回宇宙線国際会議 (梶田)

学術会議との共同主催としての開催の申請は通らなかった。後援は O K だろう。

今後は具体的なプラン策定のため、準備委員会を中心として活動を強めていく。

また、積極的に財源確保 (財団・地方公共団体・企業他) のための活動を行っていく予定。

報告 6 . 原子核専門委員会 (村木)

原子核専門委員会委員長に矢崎氏が選出された。

宇宙線研関係・宇宙線研究グループからの報告を行った。(宇宙線物理学奨励賞について、宇宙線研共同利用成果発表会、等)

来年度に向けての議題として、特に「大学と共同利用研のあり方について」、また、文部科

学省になったので、科学技術庁関係の資源も含めた、「研究予算資源の公平な配分」の実現についての検討を提起していく。

報告 7 . 物理学研究連絡委員会 (村木)

物理学研究連絡委員会委員に佐藤文隆氏が選出された。

報告 8 . 阪大核物理センター (村木)

阪大核物理センターの次期所長として、2月3日に土岐博氏が選出された。
SPRING-8 のビームが8月から共同利用として使用できるようになる予定。

報告 9 . 名大STE研 (村木)

STE研では外部評価を実施した。

モジュレーション研究会を通じて、南米高地での diffuse ガンマ線・モジュレーション・太陽中性子望遠鏡サイトの新設計画が提案されている。

報告 10 . 宇宙科学研究所・宇宙開発事業団・宇宙技術研究所 (松岡)

3機関連携・協力のため「宇宙科学技術の連携・協力に関する協議会設置
運営本部 (仮称) 設置準備
運営本部での事業として、

- (a) 信頼性向上共同研究プロジェクト
- (b) エンジン中核研究開発プロジェクト
- (c) 人工衛星打ち上げ・運用協力
- (d) 3機関連携情報インフラの整備
- (e) その他の連携・協力事業：将来輸送系、人事の交流など

宇宙開発委員会の役割

文部科学省内の委員会になった。

平成 12 年 11 月 8 日付けの宇宙開発委員会基本戦略部会報告

- 我が国の宇宙開発の中長期戦略について - に従って宇宙開発を進める。

報告 1 1 . 実行委員会報告 (坂田)

(a) 新入会員

2月10日と3月27日の実行委員会で、下記の入会希望者の紹介があり、全員の入会を承認した。

(氏名)	(所属身分)	(分野)	(推薦者)
吉村 太彦	(宇宙線研 新所長)	理論	荒船次郎、戸塚洋二
清水 裕彦	(理研 副主任)	EUSO	木舟 正、手嶋政廣
身内 賢太郎	(東大 新 D 3)	暗黒物質	蓑輪 眞、坪野公夫
中瀬 友和	(東海大 新 D 1)	CANGAROO	西嶋恭司、谷森 達
櫛田 淳子	(東工大 新 D 2)	CANGAROO	谷森 達、窪 秀利
浅原 明広	(京大 新 D 1)	CANGAROO	谷森 達、窪 秀利
永吉 勉	(京大 新 D 1)	CANGAROO	谷森 達、窪 秀利
土屋 兼一	(宇宙線研 新 D 1)	CANGAROO	森 正樹、榎本良治
片桐 秀明	(宇宙線研 新 D 1)	CANGAROO	森 正樹、榎本良治
鈴木 理映子	(宇宙線研 新 D 2)	CANGAROO	森 正樹、榎本良治
川田 和正	(甲南大 新 D 2)	Tibet	山本嘉昭、坂田通徳
田中 秀樹	(大阪市大 新 D 2)	Ooty,CERN	林 嘉夫、川上三郎
野中 敏幸	(大阪市大 新 D 1)	Ooty, 明野	林 嘉夫、川上三郎
野崎 光昭	(神戸大 教授)	加速器,BESS	佐々木真人、福島正己
眞子 直弘	(東大 新 D 1)	T A	佐々木真人、福島正己
有働 慈治	(埼玉大 新 D 1)	Tibet	堀田直己、水谷興平
小澤 俊介	(宇都宮大、新 D 2)	Tibet	堀田直己、大西宗博
石塚 正基	(東大 新 D 1)	神岡	梶田隆章、金行健治
土屋 晴文	(宇宙線研 COE 研究員)	Tibet	村木 綏、松原 豊
間瀬 圭一	(宇宙線研 新 D 1)	T A	手嶋政廣、福島正己

研究歴など詳細は、(資料 2) を ご参照下さい。

(b) 退会者

海老原 充 (都立大)、尾田 汎史 (神戸大)、牧野 忠男 (立教大)、中島 弘 (天文台)
各氏の退会を、2月10日の実行委員会で承認した。

(c) 選挙

- (1) CRC 実行委員会 委員長・委員 選挙
- (2) 宇宙線研究所共同利用実施専門委員会 所外委員 推薦候補者 選挙
- (3) 日程 ; 4月 9日 (月) : 公示 (連絡誌郵送 + メール配信)
16日 (月) : メール投票用紙配信、 27日 (金) : 投票〆切

以上の選挙実施と日程が認められた。

報告 1 2 . その他

来年度 CRC 事務局 弘前大学が担当する。

(2) 議題

OB・OG 会員制

CRC 実行委員会としての案 (以下) の紹介があり、その運用を 2000 年度よりさかのぼって行いたいとの、提案があった。

=====

- (a) 名称は「OB・OG 会員」とする。
- (b) 65 歳以上で、かつそれまでの CRC 会員年数が 15 年以上の会員が CRC からの退会申し出を行った時、OB・OG 会員への移行をお願いする。
- (c) その他、(b) の項において 15 年以上の会員歴がない場合でも、実行委員会の推薦により、

- OB・OG 会員への移行をお願いすることができる。
- (d) 機関の定年年齢が 60 歳～64 歳の会員については退会の申し出があった時、実行委員会の推薦により、OB・OG 会員への移行をお願いすることができる。
 - (e) 選挙権、CRC 総会における票決権はなしとする。
 - (f) 連絡誌などの CRC 関連情報を提供する。
 - (g) 会費はいただかない。
 - (h) 2000 年度よりこれを適用する。

=====

意見・異論、特になく了承された。

CRC 実行委員任期と選挙投票の件

任期の 2 年化については、従来から実行委員会で議論してきたところであるが、(2000 年度第 3 回 CRC 実行委員会議事録をご参照ください) その実施においては、CRC 規約改正を伴う CRC 総会での決議が必要なため、来年度、今後の提案事項として再度検討し、再来年の選挙時に実施に移せる様にしたいとの報告があり、それを了承した。

CRC 実行委員では、実行委員の年齢構成等の議論を行ってきた。それに基づき、実行委員会としては、次回の CRC 実行委員長・実行委員選挙公示に際し、以下の呼びかけ文を付記する事とした。

=====

適正な年齢構成を実現するため「若い人」を選んで頂けることを期待します。
自ら立てた計画の遂行に責任の持てる年齢の方が望ましい。
選挙を盛んにするために、会員間で推薦をすることも歓迎する。

=====

また、上記第 3 項会員間推薦に関して、以下の様な提案があった。
会員間の推薦を定まった形式で行うため、被推薦者名の受付を ICRR・CRC 事務局が行うこととする。また、その推薦表記入項目、及び実施要項・日程は以下の通りとする。

=====

推薦者名

被推薦者名：実行委員長 (推薦数：1 名以内) 実行委員 (推薦数：6 名以内)

=====

公示と共に同件についての案内を出し (被推薦者以外の人に投票してもいいことを付記し)、その推薦の締め切りは 4 月 15 日とする。
寄せられた推薦票は 4 月 16 日に CRC ホームページに掲載する。
実施に際し、以下の点を了解事項とする。

受付はメールに限る (推薦者の持つメールアドレスからの送信のみ受け付ける)。

推薦者は個人のみに限る。

推薦理由は求めない。

推薦票の発表に際し、CRC 会員にメールで「被推薦者名簿が CRC ホームページに出ています。ご参考にしてください。また、メールアドレスをお持ちでない方には、お伝えください」旨の案内を送る。

=====

また、今回同時に行われる ICRR 共同利用研究実施専門委員 (所外委員) 選挙についても同様な推薦受付を行う。本提案に関して、選挙方式の変更に当たらないか。
推薦者 1 人当たり、最大 7 人の被推薦者数は多いのでは、との意見があった。
反対意見はなく、上記、呼びかけ文・推薦募集について了承し、この 4 月の選挙より実施することとした。

(資料 1): 「CRC News」メール (委員会報告以外: 2000年9月22日~2001年3月26日)

公募案内; 12件

- 10/06: 東北大理物理教官
- 10/18: KEKCOE 研究員
- 10/26: 宇宙線研 COE 研究員
- 10/26: 宇宙線研研究員
- 11/07: 宇宙線研共同利用研究
- 11/28: KEKCOE 研究員
- 12/15: KEKCOE 研究員
- 12/26: KEK 教官
- 1/15: 東邦大理物理教員
- 1/24: Duggal Award
- 2/08: 高エネルギー物理学奨励賞推薦及び応募
- 3/01: 理化学研究所研究員

研究会案内; 23件

- 9/20: 宇宙線研共同利用研究発表会、
- 9/26: Int. Workshop on Low Energy Solar Neutrinos、
- 9/27: 「ニュートリノ振動とその起源の解明」研究会
- 10/03: 「高エネルギー宇宙の総合的理解」Int.Sympo.
- 10/03: 基研研究会「高エネルギー宇宙物理学の展望」
- 10/10: 日本 Geant4 ユーザ会ワークショップ
- 10/13: 宇宙ニュートリノ研究会
- 11/02: 宇宙線研共同利用研究発表会、
- 11/07: Int. Workshop on Low Energy Solar Neutrinos
& 2nd workshop on Neutrino Oscillations and Their Origin
- 11/16: 超高エネルギーガンマ線天体研究会
- 12/07: Lepton Photon Sympo.(Rome)
- 12/11: 宇宙線研共同利用研究発表会、
- 12/15: EPS-HEP2001(Budapest)
- 1/23: 宇宙ニュートリノ研究会
- 2/05: 最高エネルギー宇宙線 国際ワークショップ
- 2/06: 「高エネルギー ハドロン相互作用」研究会
- 2/09: 最高エネルギー宇宙線 国際ワークショップ
- 2/20: 太陽圏シンポ&太陽圏外圏の光学的手法による研究会
- 2/23: 27th ICRC (2001 Hamburg)
- 2/27: 最高エネルギー宇宙線 国際ワークショップ
- 3/05: 2001 IEEE Nuclear Science Sympo. and Medical Imaging Conf.
- 3/12: 物理-天文-地球物理 合同セミナー
- 3/12: 日本における次世代の長基線ニュートリノ振動実験ワークショップ

その他; 8件

- 11/10: 物理学会合同セッション
- 11/10: 訃報; モスクワ大学クリスチャンセン教授ご逝去
- 11/15: 訃報; 折戸周治教授ご逝去
- 1/31: 訃報; ロシアのチュダコフ博士ご逝去
- 2/20: <会報> 物理学会の代議員候補者の推薦に関して
- 3/01: 訃報; 小田稔先生ご逝去
- 3/08: 物理学会プログラムの訂正
- 3/21: CRC 総会開催のお知らせ

(資料 2) : 新入会員 (2001 年 2 月 10 日、3 月 27 日実行委員会承認)

吉村 太彦 (宇宙線研 所長着任予定) (推薦者) 荒船次郎、戸塚洋二

(研究歴) 現在、東北大教授。1978 年、宇宙のバリオン数が大統一理論で説明できる可能性を提案し、素粒子物理学による宇宙初期研究の端緒を開いた。第 27 回仁科記念賞を受賞。また、宇宙線研究所の共同利用運営委員も勤められ、平成 5 年には、宇宙線研究所の将来計画検討小委員会の委員長として、将来計画の中間答申を取り纏められた。

清水 裕彦 (理研 情報基盤研究部、副主任研究員) (推薦者) 木舟正、手嶋政廣

(研究歴) 京大理博。KEK 低温センター助手。熱外偏極中性子の原子核吸収反応における空間反転対称性の破れの測定と、時間反転対称性の破れの測定実験のための動的核偏極の研究を行った。その後、超伝導体を用いた放射線検出器の開発研究及び中性子光学素子の開発に従事している。

身内 賢太朗 (東大 理学部、新 D3) (推薦者) 蓑輪 眞、坪野公夫

(研究歴) 1997 年 4 月より、ボロメータを用いた暗黒物質探索を行い、現在、神岡地下実験室で測定を行なっている。

中瀬 友和 (東海大 理学部、新 D 1) (推薦者) 西嶋恭司、谷森 達

(研究歴) 1998 年より、CANGAROO-II 7m 望遠鏡のイメージパラメータ解析。1999 年より、CANGAROO-II 10m 望遠鏡の解析およびシュミレーションライブラリーの構築に寄与。活動銀河からの超高エネルギーガンマ線の探索をテーマに、Woomera で 1ヶ月半観測に従事し、現在、PKS2005-489 や PKS2155-304 の観測データを解析しまとめている。今年 3 月の物理学会で発表予定。

櫛田 淳子 (東工大 理学部、新 D2) (推薦者) 谷森 達、窪 秀利

(研究歴) CANGAROO グループに参加、現在の 10m 望遠鏡の PMT 試験、および鏡の開発を担当、望遠鏡建設、調整にも参加し中心的に働く。修論では 7m サイズの時の性能について評価し、博士課程では、PSR1706 の解析および、CANGAROO-III の ADC を担当している。物理学会、天文学会で合計 5 回の発表を行なっている。

浅原 明広 (京大 理学部、新 D 1) (推薦者) 谷森 達、窪 秀利

(研究歴) すばる望遠鏡の主焦点にチェレンコフ光カメラを設置して、カニ星雲からの 10GeV 領域ガンマ線観測計画に従事。検出器製作、すばるでの試験を中心に行なう。2000 年より CANGAROO のオンライン改良を行っている。物理学会発表 2 回。

永吉 勉 (京大 理学部、新 D 1) (推薦者) 谷森 達、窪 秀利

(研究歴) 修士課程では、微細加工技術によるワイヤレスガス検出器、Micro Strip Gas Chamber 及び Micro Pixel Detector の開発、及びこれを利用した、宇宙核ガンマ線検出用ガンマ線イメージング検出器の開発に従事。修論では、このガンマ線検出器のシュミレーションを行ない、1 度以下の角度分解能でガンマ線イメージが得られることが明らかになった。物理学会 1 回、国際学会 1 回発表。

土屋 兼一 (宇宙線研 CANGAROO、新 D 1) (推薦者) 森 正樹、榎本良治

(研究歴) CANGAROO-III 計画において 2001 年度に建設される 2 台目の望遠鏡について、1 台目の経験に基づき、カメラの改良を行ない、光電子増倍管カメラの設計とその性能評価を行なった。2000 年春の物理学会で「チェレンコフ望遠鏡におけるキャリアレーションシステム」を発表。この春の学会で「CANGAROO-III 望遠鏡におけるカメラの開発 (I)」を発表予定。

片桐 秀明 (宇宙線研 CANGAROO、新 D 1) (推薦者) 森 正樹、榎本良治
(研究歴) CANGAROO-III 計画において 2001 年度に建設される 2 台目の望遠鏡に導入される気象、および望遠鏡の状態の監視を行う環境モニターシステムの開発、1 台目の望遠鏡での環境モニターシステムのテストを行なっている。2000 年秋の物理学会で「CANGAROO-III モニターシステム」を発表。この春の学会で「チェレンコフ観測における雲量のモニターと宇宙線の頻度」を発表予定。

鈴木 理映子 (宇宙線研 CANGAROO、新 D2) (推薦者) 森 正樹、榎本良治
(研究歴) 修論では、CANGAROO 3.8m 望遠鏡による 線バースト GRB-970402 の観測と解析結果についてまとめた。現在は CANGAROO-II 望遠鏡で観測された 線バーストの解析と、CANGAROO-III 望遠鏡の駆動システムのソフトウェア開発に携わっている。1997 年秋の学会で「線バースト GRB970402 からの TeV 線観測」を発表。この春の学会で「CANGAROO-II 7m 望遠鏡による 線バーストの観測と解析」発表予定。

川田 和正 (甲南大 新 D 2) 推薦者; 山本嘉昭、坂田通徳
(研究歴): チベットグループの一員として 3 年間研究に参加し、チベットで装置の増設、調整及び較正データの取得に携わってきた。最高エネルギー宇宙線の到来方向から TeV ガンマ線が届いていないか、データを解析した結果、有意とは言えないまでも、3 の excess を示すものがあり、物理学会で報告した。昨年から ADC データを TDC 回路を通して記す新回路に挑戦し、来年夏に全装置に装着する予定。

田中 秀樹 (大阪市大 新 D 2) 推薦者; 林嘉夫、川上三郎
(研究歴): ウーティ空気シャワー観測、明野レッドバーガー実験、セルン L3+C 実験 (空気シャワー高エネルギーミューオンの観測) などに参加し、計 4 年間空気シャワーの研究に専念してきた。この間ウーティやセルンに滞在し研究を行っており、昨年、物理学会で発表した。

野中 敏幸 (大阪市大 新 D 1) 推薦者; 林嘉夫、川上三郎
(研究歴): ウーティ空気シャワー観測、明野レッドバーガー実験などに参加し、前期博士課程の 2 年間を空気シャワーの研究に専念してきた。この間、インドのウーティに滞在し研究を行っており、今回の物理学会において発表する予定。

野崎 光昭 (神戸大 教授) 推薦者; 佐々木真人、福島正己
(研究歴): 1982-1984: JADE@PETRA に参加し、電子陽電子衝突実験
1982-1987: 神岡鉱山内でモノポール等超重粒子の探索実験
1983-1992: OPAL@LEP の建設と電子陽電子衝突実験
1987-現在: BESS 測定器の開発・建設と宇宙線の研究
1992-現在: ATLAS@LHC 用測定器の開発と建設

眞子 直弘 (東大 新 D 1) 推薦者; 佐々木真人、福島正己
(研究歴): TA のフロントエレキ開発。特に信号変換・認識用のデジタル信号処理プログラム開発。TA 用の現地での夜光バックグラウンド測定。TA を用いた AGN ニュートリノ検出の可能性のシミュレーションによる調査。HiRes のオフラインデータ処理。

有働 慈治 (埼玉大 新 D 1) 推薦者; 堀田直己、水谷興平
(研究歴): 大学在学中 (4 年次生) よりチベットでの空気シャワー観測装置とエマルションチェンバーの連動実験によるデータ解析に参加。博士前期課程では、チベットでの装置の維持運転にも参加すると共に、連動実験のデータを解析して宇宙線陽子成分強度を測定し修士論文を作成。現在、宇宙線強度の恒星時変動の観測準備中。

小澤 俊介 (宇都宮大、新 D 2) 推薦者 ; 堀田直己、大西宗博
(研究歴) : 修士 1 年からチベットグループに所属し、過去 2 回現地に出張し装置の建設、メンテナンスに携わった。現在チベット空気シャワー観測装置のデータを用いて、Knee 領域の全粒子スペクトルを求める解析を担当している。また、モンテカルロシミュレーションも精力的に行っている。2001 年春の物理学会で Knee 領域の全粒子スペクトルを発表予定。

石塚 正基 (東大 新 D 1) 推薦者 ; 梶田隆章、金行健治
(研究歴) : 修士課程入学と同時に、スーパーカミオカンデグループに属して、宇宙ニュートリノの研究を行ってきた。また 特に低エネルギー太陽ニュートリノ実験の基礎研究も行ってきた。

土屋 晴文 (宇宙線研 COE 研究員) 推薦者 ; 村木 綏、松原 豊
(研究歴) : 名大 STE 研で、主に太陽中性子の観測を行ってきた。Tibet 中性子望遠鏡でフレアーに伴う中性子を見つけて、学位を完成させた。4 月 1 日より宇宙線研研究員になる予定。

間瀬 圭一 (宇宙線研 新 D 1) 推薦者 ; 手嶋政廣、福島正己
(研究歴) : GUT エネルギースケールのコズミックストリングの探索を、SDSS、スバルのデータを使って行ってきた。現在 TA-Optics の開発、キャリブレーション、AGASA のデータ解析も行っている。

CRC Homepage 速報-190 , CRC News No.248 ; 2001 年 05 月 01 日配信

***** < 原子核専門委員会委員議事録(案)(第 18 期:第 2 回) > *****

日 時 : 平成 13 年 4 月 11 日 (水) 13:30 ~ 17:00

場 所 : 日本学術会議 6 階会議室

議 題

諸報告

- 1、前回議事録承認
- 2、各研究所報告
- 3、各グループ報告
- 4、国際交流、国際会議等報告
- 5、その他

協議

- 1、統合計画発足と素粒子原子核分野の将来計画
- 2、原研、理研、Spring 8 等での共同利用のあり方
- 3、独法化に伴う諸問題
- 4、65 歳定年と研究の進め方
- 5、研連の見直しについて
- 6、その他

配付資料

- 1) 日本学術会議パンフレット
- 2) 21 世紀の科学アカデミーをデザインする
- 3) 第三回 World Congress of Physical Societies

- 4) IUPAP Working Group "Women in Physics"
- 5) 大強度陽子加速器計画：11月以降の動き
- 6) 高エネルギー物理（素粒子実験）コミュニティー

出席委員

二宮正夫、土岐 博、池田清美、吉村太彦、小林 誠、矢崎紘一、村木 綏、佐藤文隆、
戸塚洋二、小山勝二、駒宮幸男、黒川真一、近藤敬比古、高崎史彦、武田 廣、山田作衛、
今井憲一、永井泰樹、酒井英行、石原正泰、森 義治、谷畑勇夫、永宮正治

1：前回議事録：誤字を訂正して承認

2：研究所報告

基研（報告者：二宮）

人事：富田憲二（宇）、久保礼次郎（素）の各氏退官、嶺重 慎（宇）、大野木哲也（素）の各氏着任。

予算：変化無し。COE postdoc：5名（+1）、COE 外国人：3名（-1）。

宿舍改造：14室、外国人長期滞在可能に。

概算要求：改組大部門化をH15年に実現を目指す。H14から3大部門化要求
（基礎物理、物質構造、極限構造）。（教官：2名増員、2名教務職員振り替え、
外国人客員：現1名を3名に、国内客員—新しい考え：3名増員）

宇宙線研究所（報告者：吉村）

人事：所長 吉村、任期2年、

神岡：助教授 伊藤、エマルジョン：助教授 瀧田、Cangaroo：助手 河内

退官：荒船、木舟、石川、斉藤

H14年度概算要求：宇宙線望遠鏡計画を第1位に。

H12年12月の学術審議会総会において特定研究領域推進分科会宇宙部会報告が了承された。

報告書ではテレスコープアレイ計画を早急に実現すべき計画とし、LCGTは技術開発を強力に
推進し早期の着手を目指す計画と位置づけている。今後はこの報告に基づいて各計画の予算獲得
をはかる。

素核研（報告者：山田）

概算要求：統合計画認可。総額1335億の初年度としてKEKに約7.9億。PS予算は約8億減。

KEKBは微増。全体的には電力料金見直しで減。

人事：吉村浩司（助教授）着任。吉村善男、福田共和の両氏退官。第10次定削でKEK全体で
教官10減。各年2名減。加速器施設長、主幹人事：施設長 神谷、総主幹 黒川、
主幹 山崎、生出、榎本、佐藤（康）。

共同利用：PSの早い取出期間：1～6月。遅い取出しは秋。

K2K実験：昨年6月までのデータ量： 2.3×10^{19} POTで全体の1/5。SKのfiducial内事象
期待値（振動がない場合）約38。観測事象は28。今年7月までに2倍に。

KEKB/Belle：加速器の性能著しく向上：peak luminosity $3.41 \times 10^{33}/\text{cm}^2/\text{sec}$ 、

peak integrated luminosity/day 195/pb、毎週1/fb以上蓄積。

これまでに20/fb以上を蓄積。夏までに30/fb以上を目指す。

BelleグループはCPの破れについて最初の論文を発表。

近日中に田無分室を廃止。

国際会議等：HEACC2001（加速器施設がホスト）：3/26 - 3/30、

第3回ニュートリノファクトリについての国際会議：5/24 - 5/30、

第5回KEKトピカルコンファランス：11/20 - 11/22。

LC推進に向けた新体制作りを開始。研究計画委員会を立ち上げる。

核物理センター（報告者：土岐）

センター長 土岐（教授）4/1より任期2年、

新スタッフ 酒見（助教授）、保坂（助教授）着任

COE: postdoc : 4 人、RCNP postdoc : 4 人、COE 外国人講師 : 15 人 (新) + 4 人 (継続)
Cyclotron : 順調、good energy resolution 20keV at 400 Me
Spring8 : 2.4 GeV photon で 実験開始。
大塔コスモ観測所 : Dark Matter Search の実験を行っている。
Supercomputer : SX4 を SX5 (1.5 Tflops)、RCNP computer : VAX を IBM に交換
概算要求 : Spring8 の測定装置を第一位で推す。
アメリカの NSF が summer student 3 人を送る Program を始める。
PANIC 国際会議を 2002 (9/30 ~ 10/4) に大阪で開催する。

素粒子物理センター (報告者: 駒宮)

LEP 実験は Higgs candidates (: 2.9 sigma) を確認するために実験を延長は不承認。
LEP、OPAL の解体、LHC の建設進行中。
LEP のデータ解析のまとめを 2 年程度で行なう。11 月 5 ~ 6 日東大で LEP シンポジウムを行なう。
LHC 部門新設 : 2004 年に改組し LHC 実験を目的とする。アジア地域データ解析センターを素粒子センターに構築。LHC 部門 (教授、助教授、助手各 1) が認められる : 現員は教授 1、助教授 2、助手 11。
2/18 ~ 21 : 白馬シンポ開催

理研 (報告者: 谷畑)

予算 : 現施設 (重イオンサイクロトロン施設、Riken-BNL 共同研究、RAL 共同研究) については引き続き変化なし。RI Beam factory (RIBF) については、2 期分の予算が 13 年度認められた。(総額 280 億) RI 蓄積リング及び e-RI collider の建設承認。
播磨研究所では Free-electron-laser の建設が認められる。
人事 : 延与、牧島両主任研究員が着任。理論研究室人事進行中。現存の加速器施設の運営を担ってきた理研加速器研究施設 (RARF) と RIBF 計画推進室とを統合した組織として RIBF 計画推進本部が発足。本部長 : 小川理事、技術相談役 : 石原。
アジア連係大学院 (北京大学、ハノイ大学、清華大学 (台湾)、カセサート大学、釜山大学) 発足。理研研究者がアジアの連係大学の客員教授等になり大学院生を選考、研究指導、博士審査を行う。大学院生は理研に滞在し研究をする。 学生数 : 各大学より 1 ~ 2 名。

3 : 各グループ報告

理論関係報告 (報告者: 二宮)

議長 : 川野輝彦 (東大)、副議長 : 堀内 昶 (京大)
功労賞 : 中村誠太郎氏

CRC 関係 (報告者: 村木)

委員長 : 坂田
宇宙線国際会議 (2003 年 7 月末) に対する学会の支援 : 不採択
第一回若手奨励賞 : 奥村、竹田
65 歳以上の会員を OG ないし OB 会員とする。CRC 実行委員会委員の年齢上限を 63 歳とする事を検討中。
大形計画と大学の関係について議論。大学連合で新しいプロジェクトを考える。

高エネルギー (報告者: 駒宮)

JLC 推進の議論、統合計画への対応等を議論。 Pion のでる KEK PS テストビームは重要。存続するように努力。 若手奨励章を秋の学会で授与。 学力低下に対する対策を検討。

核談 (報告者: 今井)

統合計画、RIBF の建設許可。community は、この完成と最大限の成果をあげることに取り組む。大施設と各大学との新しい関係を模索すべく working group を立ち上げた。米国 NSAC の長期

計画検討会で日本の核物理計画を報告。加速器の規模が大きくなり、原子核分野も国際分担が強く意識されるようになってきている。米国からの上記2計画への参加を要請。物理学会の核物理分野は今年10月17日-21日にハワイで日米合同で学会を開催。また原子核国際会議を2004年に日本に誘致する予定。

4：国際交流報告

IUPAP（報告者：山田）

各 commission 報告と議論。2つの working group の報告。Women in Physics(福山)の報告。会議をセルンで開く。アンケートに物理、応物学会の68名から返答。次回のパリでの会議のために財政支援の必要あり。(学術会議自体には海外での国際会議を支援する方策がない。)(資料4参照)

Communication in Physics(潮田)の報告。electric publication 等について議論。

IUPAP Home page に情報あり。知的所有権の問題にも関連し、アメリカが戦略的に情報を確保しようとしている様子が窺えるので、WGでは日欧が、安全性を高めるためにもそれぞれにミラーサイトを置くよう主張。

ICFA（報告者：駒宮）

別紙6に基づき議論。Global Accelerator Network (GAN) について議論。

加速器の建設はこのような形態では不可能か？ 2つの TASK FORCE が作業中。

TRC (International Linear Collider Technical Review Committee) で世界のLCの技術評価が始まる。ICFAとは直接関係ないが、GSF(OECD Global Science Forum)でもHEPのconsultative group を作って大きな加速器計画のあり方を検討中。

ACFA（報告者：黒川）

ACFA(Asian Committee for Future Accelerators)(前回、韓国の慶州で今年の5月に開催)

今年の会議は、9月に北京で開催されるAPAC2001の期間中に開かれる。日本の委員は、岩田(KEK)、黒川(KEK)、藤井(東大物性研)の3名。前回の会議にて、新たに大強度陽子加速器に関するワーキンググループが発足し、第1回のワークショップが今年の2月に韓国のKAERI(韓国原子力研究所)で開催。ACFAもとは、これ以外に、3つのWorking groupがある。

(1) LCの物理と測定器、(2) アジア地域におけるネットワーク、(3) アジア地域における加速器カタログ作成。(1)については、昨年10月に北京の精華大学にてワークショップが開催。

又、現在、LC加速器ワーキンググループ結成の準備が進んでおり、APAC2001期間中に準備会を開き、ACFAにて承認を求める予定。

ICNP（報告者：永宮）

OECD Global Science Forumにおいて大強度陽子加速器の世界的な戦略についての議論がなされた。この最終報告書は、昨年11月に出版された。

PaNAGIC（報告者：戸塚）

PaNAGIC: Particle and Nuclear Astrophysics Gravitational International Committee;

IUPAP C4が幹事となり、C11, c12, C19と共同して、非加速器物理、高エネルギー、宇宙ガンマ線、宇宙線特に最高エネルギー宇宙線、ニュートリノ物理、重力波観測等の推進、大型プロジェクトの整理に関する検討を行うワーキンググループ。4回の会合が持たれ、PaNAGIC web citeの立ち上げ(<http://www.lngs.infn.it/>)、関連研究領域を説明するレポートの作成、また関連する研究を行っている機関の紹介及びlinkをweb pageに作成。(web citeからdownload可能)。

PaNAGICはTAUP(Topical Aspects of Underground and Particle Astrophysics)及び

Amaldi Conferenceをスポンサーする。また若手学生、研究のためのスクールをスポンサーすることを考慮中。PaNAGICの下に2つのsubcommitteeを持つ：HENAP(High Energy Neutrino Astronomy Panel)及びGWIC(Gravitational Wave International Committee)。HENAPは世界にいくつかある超高エネルギー宇宙ニュートリノ観測計画をレビューし何らかの提言を行う。

9月のTAUP2001 conference中にミーティングを持つ。

5：審議

5-1) 将来計画

統合計画：資料5を元に議論。

第1期：30GeV、第2期は電力増強で50GeVにする。Neutrinoは第2期。第2期建設は、第1期出発から2~3年遅れで着手したい。建設体制の組織案をつくっている。本文中、プロジェクトに関わる仕様、予算配分の決定を「プロジェクトチーム」が行うに変更。人事は別の機関で。運営会議（両研究機関の責任者で構成）は重要事項を決定する。大型予算を使うので、他の計画にどの程度の影響があるのか？750億のKEKへの経費は特別会計を頼っているが、それでは足りないので一般会計からの算入などの工夫があるであろう。また、これからの大型計画は、総合科学技術会議のサポートがないとむずかしい。第2期以降の議論を物研連でも始めて欲しい。

統合計画運営体制タスクフォース中間報告

統合計画の施設完成後の運営体制について、タスクフォースで検討。3月の推進会議に中間報告という形でこれまでの議論のまとめを報告（資料配付）。特に利用体制について、いくつかの重要な原則をまとめ、産業界の利用促進についても報告。推進会議では、組織の在り方にふみこんだ提案をするべきであるなどのいくつかのcommentがあり、今後も最終報告の答申にむけタスクフォースを継続することになった。意見のある方は今井（またはメンバー）まで。

JLC計画：資料6を元に議論。

JLCは日本の高エネルギー物理の次期基幹計画であり、基礎科学の幹になる計画。KEKには、JLC推進の新しい体制ができた。LC推進会議で加速器開発の報告会のまとめ作る。

TESLA(3500億)、JLCの経費見積もりはまだ。JLCのMile-stoneは新推進体制で作る。

2003年までに調査費要求。Siteの予備調査は安定な岩盤を仮定して行なった。Siteの条件をサイト検討会がまとめている。アメリカではLCが次期計画であるというConsensusはまだない。

アジアの「セルン」にしたい。但しアジア諸国がどの程度財政負担をするかは不明。

JLCの重要なコンポーネントのアジアでの量産は可能だろう。今後JLCに関して行政の理解を得る努力をする。TESLAはXFELをプロジェクトに組み込んでいるが、LCの技術を利用してLCとは別に建設したほうが安価でかつ速くできる。勿論、JLCが出来れば高エネルギービームを利用して近くにXFEL建設が可能。

5-2) 共同利用問題

上の報告にあった様に統合計画の共同利用、運営体制については、タスクフォースが検討中。

原研の共同利用（報告者：今井）

運営体制についてのタスクフォース（資料1参照）が検討中。

SPring 8、放医研、理研、核物理センター、宇宙線研の共同利用（報告者：土岐）

これまで文部省傘下の共同利用研究機関における共同利用のための旅費・実験費などは研究機関がサポートしていた。今後、文部科学省になったことや、統合計画のこともあり、これまで科技厅傘下の共同利用はどの様に行われているのかを調べた。要約すると、実験装置の利用は結果を公開するとすれば経費を取らない。旅費・実験費は共同利用の概念がない場合には共同研究の形をとるなどの工夫をしてでも研究機関でサポートしている。それぞれ課題採択委員会で議論をして共同利用の課題採択している。

5-3) 独法化について：一般的問題については次回に議論

共同利用に関係して、佐藤委員から次のような指摘があった。

独法化に伴い、今後、一部の科研費については、研究費の30%相当をオーバーヘッドとして上乘せし、大学の運営に当てることになった。その結果研究費を大学に持って来れる研究が幅を利かすことになる。ことに独法化で大学間の競争が前面に出ると一層そうなる。現在のKEKの様

な大型計画に共同利用で参加する場合に、研究費が研究所にのみおると、大学には予算的メリットがなく、共同利用者の学内での立場は弱くなる恐れがある。共同利用の際に何かいい手を考える必要があるかもしれない。この件で、KEK等の共同利用研究所の所長が、まず問題を整理して欲しいという提案があった。

5-4) 研連定数の見直しについて。

第4部会において、第17期からの引き継ぎ事項として、研連の見直しが検討されている。昨年12月25日の理学総合連絡会議では、空き研連を作り、その時期の重要課題を時限研連で検討できるようにするため、研連の統合、委員数の一律(10%程度)削減などを各研連で検討することになった。これについての議論は全体会議で。

5-5) 65歳定年と研究の進め方は次回以降に議論する。

CRC Homepage 速報-187, CRC News No.245; 2001年04月26日配信

***** < **KEK 運協報告** > *****

(文責: 村木 綏)

日 時 : 4月19日 10:30~17:00

場 所 : KEK 大会議室

協議事項

新委員の紹介の後、会長に岩田正義氏(KEK)、副会長に橋本治氏(東北大)を選出した。

加速器・共通研究施設協議会、機構運営協議員候補者の選出をした。

素核研の長期戦略と現行研究の進捗状況を検討し、所長に提言することになっている、素核研研究計画委員会を立ち上げたいという山田所長の提案を了承した。委員は運営協議会で推薦する。理論3、高エネルギー3、原子核3、宇宙線・非加速器2とし、なるべく若い研究者が委員になって欲しいとのことである。(ここではリニアコライダー(LC)が主要な議題の一つになるが、その他にもJHFに向けてPSをどうするのかとか、Bell、K2K等の現行の計画についても議論されるだろう。またより広い分野を対象とした若手研究者の発表の場も設けたいと所長は考えているようである。)

教官人事について

教授に堺井義秀氏、助教授に羽澄昌史氏、助手に里嘉典氏を所長に推薦した。

報告事項

菅原機構長

* 菅原機構長の後任人事を2002年2月までに決めて欲しいので、機構運協から依頼があらう。その後所長選考(6月)、そして総主幹の人事をやることになる。今期は重要な役目を担っている。

* 研究所の概要について。ニュートリノやB-physicsの研究は最重要課題として進めていかないといけないが、JHFという新たな計画が発足する。そのため陽子加速器の運転等今までの研究に影響が出る。研究体制を変えていかないといけない。統合計画(JHF)を進めるために原研と協定書を結ばないといけないが、文化の違いもあり相当難航している。機構長は、組織が(誰が何をやっているのかわかるように)透明性を保つ必要があると考えている。

* リニアコライダー(LC)について。ドイツのTESLA計画の全容ができた。ドイツ政府の諮問会議で、GSI、重イオン、中性子と兼ね合わせて議論され、priorityを決める。

米国の方はHEPAPのサブコミティが結成されている。こちら9月中旬には結論を出す。20年を見通した米国の計画となる。OECDのメガサイエンスフォーラムの方はCERN、ローマ、KEK(今秋)、SLAC(2月)と回ってまとめる。2月の会議はICFAと合同の会議と

- なる。 C-band、X-band、TESLA を比較する。
- * 政府筋では核融合炉 ITER 計画（約 5000 億円、日本側が負担する）を日本で引き受けるかどうかの審議を控えているので、LC の審議に入れない状況がある。
 - * 独法化。 前回（3 月末）の CRC への報告とあまり変わっていない。
（文部科学省は、国大協案を中心にまとめるだろうが、経団連関係者のある人はそれが出た段階で徹底的にたたきと言っている。そんなことしたら、企業は結局自分の首を絞めるだけなのに（この部分は村木の感想）。機構長が委員で出ている財務会計委員会では、大学関係者は細かい交付金制度について議論しているが、企業関係者は興味ないようである。（彼らは、外の世界でリストラが進んでいる時、大学関係者は、そんなことを無視して細かい議論をするのですか？と発言している。）
 - * JHF について。1335 億円の中味は相当厳しい内容である。このままでは加速器はできるが、実験はできないことになる。色々な工夫をして KEK から持っていけるものは持っていかないといけなかもしれない。実験の予算の手当はまだできていない状況にある。第二期のニュートリノビーム計画も前だしのやっつけていくというスタンスでいく。今までの PS の活動をそのまま保って、6 年後に JHF に移行するのは不可能なので工夫してもらいたい。その全体計画を文部科学省に提案する必要がある。

山田所長報告

- * 4 月 11 日、12 日の物研連の報告、総研大関係の報告があった。総研大では小平氏が学長になった。また国立情報学研究所が総研大に加わることになった。
 - * 物理実験関係。Bell が 20.8fb (-1) に達した。また 2 月には論文を投稿した。
ATLAS の magnet が完成し、テスト中であるとの報告があった。
 - * ニュートリノ K2K 関係（中村）。7 月始めまでにデータが今年の 2 倍となる。昨年 6 月までのデータを用いて、スーパーカミオカンデで観測された fully contained 1-ring μ -like events のエネルギー分布が示された。
 - * PS: 統合計画はどうか現時点でははっきりしないが人員を再配置する必要がある。
 - * 加速器関係（神谷）
 - 第一研究系（山崎） 統合計画 (JHF) に専念する
 - 第二 "（生出） KEKB 担当
 - 第三 "（榎本） ete - ライナック、LC 担当
 - 第四 "（佐藤） PS 担当
- 今後 2~3 年の間に分室が東海村にでき、そこへ張り付けることになる。
教官 20 名、技官 10 名で本当に足りるのか。原研の人を加速器に移せるかという質問が出た。
- * 人事計画（山田所長）: 統合計画のためのビームチャンネルの建設と、もっと先の将来計画（例えば LC 等）を考慮した新しい人事計画を作りたい。それを検討してもらいたいとの発言があった。（3 年以内に 8 名程度の人が定年退官する。）

***** < 平成13年度CRC選挙の開票結果 > *****

開票日 ; 2001年5月7日(月)
 事務局 ; 大西宗博、林田直明
 立会人 ; 川田和正(甲南大)
 定足数 ; 108(有権者数324)
 有効投票数 ; 131(郵便34, Email 97)

(CRC実行委員会委員長)

順位	氏名	得票	所属機関
1.	村木 綏	67	名古屋大
次点	川上三郎	16	大阪市立大
	その他	36	
	白票	12	

以上の結果、村木 綏 氏が委員長に選ばれた(1期目)。

(CRC実行委員会委員)(定員12名)

当選順位	氏名	得票	所属機関	備考
当選 1.	谷森 達	51	京都大	前委員
当選 2.	柳田昭平	42	茨城大	
当選 3.	坂田通徳	41	甲南大	前委員
当選 4.	鳥居祥二	40	神奈川大	前委員
当選 5.	福島正己	35	宇宙線研	同一機関1位
当選 6.	鈴木洋一郎	35	宇宙線研	同一機関2位
当選 7.	神田展行	33	宮城教育大	前委員
	手嶋政廣	30	宇宙線研	同一機関3位
当選 8.	川上三郎	27	大阪市立大	同一機関1位
当選 9.	水谷興平	25	埼玉大	前委員
当選 10.	荻尾彰一	23	東京工業大	
当選 11.	宗像一起	22	信州大	前委員
	太田 周	20	宇都宮大	前委員7位
	森 正樹	19	宇宙線研	同一機関4位
	榎本良治	18	宇宙線研	同一機関5位
当選 12.	吉越貴紀	17	大阪市立大	同一機関2位
	村木 綏	15	名古屋大	前委員8位
	梶田隆章	15	宇宙線研	同一機関6位
	松岡 勝	14	宇宙開発事業団	前委員9位
次点補欠	郡司修一	13	山形大	ジャンケン
次次点補欠	井上直也	13	埼玉大	ジャンケン
	その他	221		
	白票	69		

以上の結果、上記の当選 12 位までの 12 名の方が委員に選ばれた。

- (注 1) 委員長に投票された次点以下の方の票 (52 票) は、委員の票に加算される。
 (注 2) 「同一機関から選ばれる委員の数は、2 名を越えることはできない」規定により、宇宙線研の手嶋政廣氏、榎本良治氏、森正樹氏、梶田隆章氏は委員とならない。
 (注 3) 「委員 12 名中、前年度委員が 6 名を越えることはできない」規定により、前委員の太田周氏、村木綏氏、松岡勝氏は委員とならない。
 (注 4) 「同票の場合は、本人に連絡のうえ、くじ引きにより決定する。」規定により、メールジャンケンを実施して勝者を次点補欠とした。

(東京大学宇宙線研究所 共同利用研究 実施専門委員会委員
 (宇宙線分野の所外委員) 推薦候補者の選挙) (定員 12 名)

推薦順位	氏名	得票	所属機関	備考
推薦 1.	松原 豊	37	名古屋大	
推薦 2.	柳田昭平	28	茨城大	
推薦 3.	梶野文義	27	甲南大	
推薦 4.	西嶋恭司	25	東海大	
推薦 5.	鳥居祥二	22	神奈川大	
推薦 6.	宗像一起	19	信州大	
推薦 7.	村木 綏	18	名古屋大	
推薦 8.	水谷興平	17	埼玉大	
推薦 9.	郡司修一	16	山形大	
推薦 10.	谷森 達	15	京都大	
推薦 10.	川上三郎	15	大阪市立大	
推薦 12.	柴田 徹	12	青山学院大	ジャンケン
次点補欠	櫻井敬久	12	山形大	ジャンケン
次次点補欠	坂田通徳	11	甲南大	
次次点補欠	吉越貴紀	11	大阪市立大	
	その他	201		
	白 票	144		

以上の結果、上記の推薦 12 位までの 12 名の方が候補者として推薦された。

- (注 1) 以上は「所外委員は、同一機関からの選出を 2 名以内とする。」規定に、かなっている。
 (注 2) 「同票の場合は、本人に連絡のうえ、くじ引きにより決定する。」規定により、メールジャンケンを実施して勝者を推薦 12 位とした。

***** < 第 24 回 KEK 運協報告 > *****

(文責：村木 綏)

日 時： 平成 13 年 6 月 12 日 13:00 ~ 16:40

報告事項

山田所長

- * 5/9 と 6/11 B ファクトリー推進委員会が開かれた。
- 6/5 ~ 6 日米高エネルギー合同委員会が開かれ、今年度実施計画を了承した。

菅原機構長

* Linear Collider(LC) 推進委員会が作られた。その組織図や内規について説明があった。来年度予算に LC 建設のための調査費を要求したい。 * 独法化について (機構長は財務関係の委員会に入って作業をしている) 大学付属の全国共同利用研究所も視野に入れて財務制度を検討してきた。学術研究に関わる

経費は、外形基準による運営交付金とは別個に、学術研究費又は研究事業費として考えて欲しいと提案したい。科学技術基本法に基づき、充実してゆく方向のお金でないといけない。教育の予算と別個の形態を考えてもらいたい。大学との緊密な共同研究の推進のためには、予算の移しかえが弾力的に行われることが望ましいと自分は考えるが、会計関係から移算はダメと言われている。(一大学一法人と共同利用の概念は矛盾するので、こういう解決の方向が考えられるという風に村木には受け取れた。)

* 独法化について (山田所長から共同利用研所長懇談会人事部会に出席している)

- (1) 機関の長の選考法は今の方法でよい。外部の人を含んだ評議会で選出する。
- (2) 教育公務員特例法の精神は継続する。研究者人事は法人化しても今までの方法でよい。独法化後も法人間で人事交流はあることが望ましい。
- (3) 技官の役割は重要である。任用は行政職よりも研究職に近い方がよい。今までに独法化された組織の人事制度を勉強した。キチンと準備すれば相当良いものができると思われるが、そのためには手間がかかるだろう。

ビーム関係の報告

PS (中村): K2K 関係の積分ビーム強度は 4.6×10^{19} proton on target に達した。データが去年の倍になった。

Belle(高崎): 積分ルミノシティーは $28.3 fb^{-1}$ に達した。積分ルミノシティーは SLAC が若干多いが、夏までに解析された事象は KEK の方が多いことも考えられる。7 月 19 日の研究所内セミナーで結果を発表した後、Roma の会議で発表する。

JHF (永宮): JHF の現状について説明があった。宿地区の住民との合意が得られれば、ボーリングによる地質調査が始まる。第 1 回運営会議の報告、原研との共同建設組織表、プロジェクトチームメンバー表、運営体制についてのタスクフォースのまとめ、第 1 期計画と第 2 期計画 (ニュートリノ施設も含む) の予定表等の紹介があった。

協議事項

- * 平成 14 年度概算要求の大綱案を了承した。
- * 吉村喜男氏を名誉教授に推薦することを了承した。
- * 短寿命核ビームを用いた実験助手を公募することを了承した。
- * 素粒子原子核計画委員会メンバーを選出した。
(山田、中家、金; 田村、延与、桜井; 中畑、高橋(忠); 日笠、澄田、野尻; 波澄、藤井(啓)、吉村、宮武、岡田; 及び所長の諮問により随時必要な人)
- * 石橋助教授(理論)から、任期をはずして欲しいとの要望があり、評価委員会が設けられ可とする提案があった。最初のケースでもあるので慎重に審議がした結果、本人の業績を評価し、任期をはずしても良いとの判断に達した。

***** < 日本物理学会領域代表者会議報告 > *****
(7月4日) (文責 村木 綏)

領域代表者会議設置目的の説明を土岐理事より受けた。物理学会理事会には、全領域から代表者が出席していないので、今回のような「ビーム物理」という新領域・新分科を設置して欲しいと言う要求に公的に対処できないと判断したためである。

「ビーム物理」という新領域を作ることにつき議論した結果、3年間の暫定期間として「新」領域という項目を作り、試行期間を置き発表数の増減をモニターして、3年後に領域代表者会議でその存続を決めることにした。年会にのみ設置することになった。

今後新しい要求も出てくるのが考えられるので、基準が必要であるということになった。

(1) ボトムアップであること、(2)200人程度の集団がいて40個程度の研究発表がある今回の例を、参考にすることとなった。「ナノ物理」「環境物理」の新領域も試行してはどうかと提案したがトップダウンはダメということになった。

秋の物理学会での物理学者の社会的責任のセッションでは Women in physics と OD 問題を取り上げる。

物理学会の年会をどうして大きな国立大学がやらないのか聞いてみたら、会場がたくさん取れない場合が多く無理であるとのことである。

学会の参加料の500万円は講演集代に、あとの500万円はコンピューター化されたとはいえ、期限後に申し込んでくる人とか、不備な申込みのチェックのため人手がいるので、そのお金等に使っていて、トントンか赤字だそうである。

もっと参加費を上げて(例えば15,000円)良質の内容を提供する学会にしてはどうかとの提案もあったが、まずは会員にアンケートで問い合わせることが重要であるということになった。

今回秋の分科会が三つに分かれるので、予稿集のうち素粒子・宇宙線は、非常に薄くなる可能性があるので、キチンと書いて欲しいとのことである。(将来は天文学会のように、予稿があらかじめ提出されていない申込みは受け付けないという方法が良いかもしれない。)

尚、今回の領域代表者会議は、初めて開かれた臨時的側面もあり、任期は9月30日までである。新委員を送る必要があり、7月13日のCRC実行委員会で決め、物理学会で宇宙物理(理論)関係も含めて了承をとりたい。任期は1年で、プログラム世話人と協議しながらシンポジウムや招待講演者を決める責任がある。物性分科会は13の領域代表者会議を開いているが、当面素粒子・原子核・宇宙線分野は代表者会議を開くという話にはなっていない。

***** < 平成13年度第1回 CRC 実行委員会 議事要録 > *****

日 時 : 平成13年7月13日 午前11時15分~午後5時00分

場 所 : 宇宙線研究所6階会議室A

出席者 : 村木 綏 (名大STE研:委員長)、谷森 達 (京大)、鈴木洋一郎 (ICRR)、
神田展行 (宮城教育大) 荻尾彰一 (東工大)、柳田昭平 (茨城大)、吉越貴紀 (大阪市大)、
鳥居祥二 (神奈川大)、水谷興平 (埼玉大)、坂田通徳 (甲南大) : 以上委員
梶田隆章 (ICRR)、佐々木真人 (ICRR)、手嶋政廣 (ICRR) : オブザーバー
市村雅一 (弘前大事務局)、林田直明 (ICRR 事務局)

(目次)

----- < 報告等 > -----

- (1) CRC 事務局報告
 - (a) 訃報
 - (b) 入会希望
 - (c) OBOG 会員
 - (d) CRC 活動
 - (e) 平成13年度CRC選挙の開票結果
 - (f) 「CRC News」メール配信
- (2) 諸報告
 - (a) 宇宙線国際会議準備報告
 - (b) KEK 運営協議会
 - (c) 阪大核物理センター
 - (d) STE 研報告
 - (e) 日本物理学会領域代表者会議
 - (f) 物研連
 - (g) 宇宙線研究所

----- < 議事等 > -----

- (3) CRC 賞の選考委員の確認とその作業について
- (4) 春の物理学会について
- (5) 物理学会の領域代表の選出について
- (6) 宇宙線研運協委員の推薦候補について
- (7) 前年度引き継ぎ事項
- (8) 将来計画について

(資料1)

=====

----- < 報告等 > -----

(1)CRC 事務局報告 (村木) 前回 (2001.03.27) 実行委員会 以降

(a) 訃報

7月10日、広島大学理学部の 宮村 修 教授が ご逝去されました。
謹んで、ご冥福をお祈り致します。

(b) 入会希望

瀧田正人 (宇宙線研エマルジョン 助教授) 推薦者: 湯田利典、大西宗博
 (研究歴): 1983-1993 神岡実験の建設とニュートリノ物理や核子崩壊の研究。
 1994-2001 スーパー神岡実験で建設と大気ニュートリノ起源の上向き
 ミューオンの解析。
 2001- Tibet AS 実験で高エネルギー宇宙線の研究を開始。

齋藤武彦 (Max-Planck-Inst. Postdoc 研究員) 自薦
 (研究歴): Master in Univ. of Tsukuba for study of the nuclear structure on A 190
 nuclei. Ph.D. in the Niels Bohr Inst. Univ. of Copenhagen in 1999 for
 the experimental study of nuclear structures of A 180 nuclei.
 The Brookhaven National Laboratory in NY to work for the LEGS spin
 collaboration. Since Jan 2001, working in the Max-Planck-Institute
 fuer Kernphysik for the H.E.S.S. project.

研究歴等が紹介され、瀧田氏は入会が承認された。

齋藤氏については、谷森委員が関係者に問い合わせることになった。

(c) OBOG 会員

平成 12 年度退会者、今年度退会申し出者、及び通信会員の有資格者に、「OBOG 会員」への
 移行を希望するかどうか、問い合わせた結果、

勝俣五男: 元通信会員

川崎信吉: 元通信会員

森 覚 : 本人から移行を申し出

都築嘉弘: 今年度初め退会申し出の後希望

の 4 名の方が希望された。4 名とも条件に適合しており、承認された。

他の 12 年度退会者は希望されなかったため、そのまま退会となった。

(d) CRC 活動

(1) 4 月 9 日; CRC 連絡誌 No.282、速報 5 号 発行郵送

(2) 4 月 9 日; CRC 選挙公示

4 月 10 日; 選挙推薦公募

4 月 16 日; 選挙推薦掲示板公開

4 月 17 日; メール選挙用紙配布

4 月 27 日; 投票ノ切

5 月 7 日; 開票

(3) 7 月 11 日; 宮村修様御遺族様へ弔電

(4) 7 月 12 日; 速報 6 号 発行郵送

(5) 随 時 ; CRC News 配信

(e) 平成 13 年度 CRC 選挙の開票結果

開 票 日 ; 2001 年 5 月 7 日 (月)

事 務 局 ; 大西宗博、林田直明

立 会 人 ; 川田和正 (甲南大)

定 足 数 ; 108 (有権者数 324)

有効投票数 ; 131 (郵便 34, Email 97)

(CRC 実行委員会委員長)

順位	氏 名	得票	所属機関
1.	村木 綏	67	名古屋大
次点	川上三郎	16	大阪市立大
	その他	36	
	白 票	12	

以上の結果、村木 綏 氏 が委員長に選ばれた (1 期目)。

(CRC 実行委員会委員) (定員 12 名)				
当選順位	氏 名	得票	所属機関	備 考
当選 1 .	谷森 達	51	京都大	前委員
当選 2 .	柳田昭平	42	茨城大	
当選 3 .	坂田通徳	41	甲南大	前委員
当選 4 .	鳥居祥二	40	神奈川大	前委員
当選 5 .	福島正己	35	宇宙線研	同一機関 1 位
当選 6 .	鈴木洋一郎	35	宇宙線研	同一機関 2 位
当選 7 .	神田展行	33	宮城教育大	前委員
	手嶋政廣	30	宇宙線研	同一機関 3 位
当選 8 .	川上三郎	27	大阪市立大	同一機関 1 位
当選 9 .	水谷興平	25	埼玉大	前委員
当選 10 .	荻尾彰一	23	東京工業大	
当選 11 .	宗像一起	22	信州大	前委員
	太田 周	20	宇都宮大	前委員 7 位
	森 正樹	19	宇宙線研	同一機関 4 位
	榎本良治	18	宇宙線研	同一機関 5 位
当選 12 .	吉越貴紀	17	大阪市立大	同一機関 2 位
	村木 綏	15	名古屋大	前委員 8 位
	梶田隆章	15	宇宙線研	同一機関 6 位
	松岡 勝	14	宇宙開発事業団	前委員 9 位
次点補欠	郡司修一	13	山形大	ジャンケン
次次点補欠	井上直也	13	埼玉大	ジャンケン
	その他	221		
	白 票	69		

以上の結果、上記の当選 12 位までの 12 名の方が委員に選ばれた。

- (注 1) 委員長に投票された次点以下の方の票 (52 票) は、委員の票に加算される。
- (注 2) 「同一機関から選ばれる委員の数は、2 名を越えることはできない」規定により、宇宙線研の手嶋政廣氏、榎本良治氏、森正樹氏、梶田隆章氏は委員とならない。
- (注 3) 「委員 12 名中、前年度委員が 6 名を越えることはできない」規定により、前委員の太田周氏、村木綏氏、松岡勝氏は委員とならない。
- (注 4) 「同票の場合は、本人に連絡のうえ、くじ引きにより決定する。」規定により、メールジャンケンを実施して勝者を次点補欠とした。

(東京大学宇宙線研究所 共同利用研究 実施専門委員会委員
(宇宙線分野の所外委員) 推薦候補者の選挙) (定員 12 名)

推薦順位	氏名	得票	所属機関	備考
推薦 1.	松原 豊	37	名古屋大	
推薦 2.	柳田昭平	28	茨城大	
推薦 3.	梶野文義	27	甲南大	
推薦 4.	西嶋恭司	25	東海大	
推薦 5.	鳥居祥二	22	神奈川大	
推薦 6.	宗像一起	19	信州大	
推薦 7.	村木 綏	18	名古屋大	
推薦 8.	水谷興平	17	埼玉大	
推薦 9.	郡司修一	16	山形大	
推薦 10.	谷森 達	15	京都大	
推薦 10.	川上三郎	15	大阪市立大	
推薦 12.	柴田 徹	12	青山学院大	ジャンケン
次点補欠	櫻井敬久	12	山形大	ジャンケン
次次点補欠	坂田通徳	11	甲南大	
次次点補欠	吉越貴紀	11	大阪市立大	
	その他	201		
	白 票	144		

以上の結果、上記の推薦 12 位までの 12 名の方が候補者として推薦された。

(注 1) 以上は「所外委員は、同一機関からの選出を 2 名以内とする。」規定に、かなっている。

(注 2) 「同票の場合は、本人に連絡のうえ、くじ引きにより決定する。」規定により、メールジャンケンを実施して勝者を推薦 12 位とした。

(f) 「CRC News」メール配信

委員会報告；8 件

4 月 4 日、素核研 (KEK) 運営協議会報告

4 月 12 日、<会報>平成 12 年度第 4 回 CRC 実行委員会議事要録

4 月 23 日、物理学研究連絡委員会議事録 (第 18 期：第 1 回)

4 月 24 日、<会報>平成 12 年度第 2 回 CRC 総会議事要録

4 月 26 日、KEK 運協報告

5 月 01 日、原子核専門委員会委員議事録 (案)(第 18 期：第 2 回)

6 月 19 日、第 24 回 KEK 運協報告

7 月 09 日、<会報>日本物理学会領域代表者会議報告

公募案内；7 件 (詳細は添付の資料-1 を参照)

研究会案内；12 件 (詳細は添付の資料-1 を参照)

その他のお知らせ；9 件 (詳細は添付の資料-1 を参照)

(2) 諸報告

(a) 宇宙線国際会議準備状況報告 (梶田) 春の学会以降

4 月に宇宙線研究所が主催となる事を決定した。

5 月 17 日に第 5 回宇宙線国際会議準備委員会を開催した。主な議題は以下の通り。

(1) 組織委員会委員、プログラム編成委員候補の選出

それぞれ以下のように選出された。

・組織委員会委員

吉村 (宇宙線研、Chair)、梶田 (宇宙線研、Co-chair)、手嶋 (宇宙線研、Secretary)、佐々木、森、金行、大橋、瀧田、伊藤 (以上宇宙線研)、谷森 (京都)、松原 (名古屋)、

- 吉越 (大阪市大)、吉田 (KEK)、荻尾 (東工大)
- ・プログラム編成委員
 - OG : 福島 (宇宙線研、Chair)、木舟 (信州)、柴田 (青学大)、高原 (大阪)、
松岡 (宇宙開発事業団)、柳田 (茨城)
 - SH : 寺沢 (東大、Chair)、桜井 (山形)、宗像 (信州)、村木 (名古屋)
 - HE : 湯田 (名古屋、Chair)、荒船 (大学評価学位授与機構)、笠原 (芝浦工大)、
鈴木 (宇宙線研)、戸塚 (宇宙線研)、中村 (KEK)
 - 重力 : 黒田 (宇宙線研、Chair)、中村 (京都)
 - LOC からの委員 : 梶田 (宇宙線研)

(2) 旅行代理店の選定 : JTB 系のアイシーエス企画を選定した。

7月18日に第1回組織委員会を予定している。主な議題は以下の通り。

- (1) ハンブルグにおける次回の宇宙線国際会議の宣伝について
- (2) 宇宙線国際会議の調査について

ここで、国際会議の Proceedings を何らかの形でレフリー付きにしたらどうか、との意見が出され、若干の議論の後、組織委員会の方で検討してもらうこととした。

(b) 第24回 KEK 運協報告 (村木)

(平成13年6月12日に開催された。)

報告事項

- (1) 5月9日と6月11日にBファクトリー推進委員会が開かれた。また、6月5日~6日に日米高エネルギー合同委員会が開かれ、今年度実施計画を了承した。
- (2) Linear Collider(LC) 推進委員会が作られた。その組織図や内規について説明があった。来年度予算にLC建設のための調査費を要求したい。
- (3) 独法化について (菅原機構長から、財務関係の委員会からの報告)
大学付属の全国共同利用研究所も視野に入れて財務制度を検討してきた。学術研究に関わる経費は、外形基準による運営交付金とは別個に、学術研究費または研究事業費として考えて欲しいと提案したい。科学技術基本法に基づき、充実してゆく方向のお金でないといけない。教育の予算と別個の形態を考えてもらいたい。大学との緊密な共同研究の推進のためには、予算の移しかえが弾力的に行われることが望ましいと自分は考えるが、会計関係から移算はダメと言われている。
- (4) 独法化について (山田所長から、共同利用研所長懇談会人事部会からの報告)
 - a) 機関の長の選考法は今の方法でよい。外部の人を含んだ評議会で選出する。
 - b) 教育公務員特例法の精神は継続する。研究者人事は法人化しても今までの方法でよい。独法化後も法人間で人事交流はあることが望ましい。
 - c) 技官の役割は重要である。任用は行政職よりも研究職に近い方がよい。今までに独法化された組織の人事制度を勉強した。キチンと準備すれば相当良いものができると思われるが、そのためには手間がかかるだろう。
- (5) ビーム関係の報告
 - PS (中村): K2K 関係の積分ビーム強度は 4.6×10^{19} proton on target に達した。
データが去年の倍になった。
 - Belle(高崎): 積分ルミノシティーは $28.3fb^{-1}$ に達した。積分ルミノシティーは SLAC が若干多いが、夏までに解析された事象は KEK の方が多いことも考えられる。
7月19日の研究所内セミナーで結果を発表した後、Roma の会議で発表する。
 - JHF (永宮): JHF の現状について説明があった。宿地区の住民との合意が得られれば、ボーリングによる地質調査が始まる。第1回運営会議の報告、原研との共同建設組織表、プロジェクトチームメンバー表、運営体制についてのタスクフォースのまとめ、第1期計画と第2期計画(ニュートリノ施設も含む)の予定表等の紹介があった。

協議事項

- (1) 平成 14 年度概算要求の大綱案を了承した。
- (2) 吉村喜男氏を名誉教授に推薦することを了承した。
- (3) 短寿命核ビームを用いた実験助手を公募することを了承した。
- (4) 素粒子原子核計画委員会メンバーを選出した。
(山田、中家、金；田村、延与、桜井；中畑、高橋(忠)；日笠、澄田、野尻；
波澄、藤井(啓)、吉村、宮武、岡田；及び所長の諮問により随時必要な人)
- (5) 石橋助教授(理論)から、任期をはずして欲しいとの要望があり、評価委員会が設けられ可とする提案があった。最初のケースでもあるので慎重に審議した結果、本人の業績を評価し、任期をはずしても良いとの判断に達した。

(c) 阪大核物理センター報告(村木)

土岐教授が 4 月 1 日付けでセンター長になった。任期は 2 年。

現在 COE ポスドク 4 名、RCNP ポスドク 4 名、COE 外国人講師 15 名(新) + 4 名(継続)がいる。

Spring8 の inverse compton のファクトリーを作った。8 月から photon のビームラインの共同利用が始まる。photon のエネルギーは 2.4 GeV。運営は核物理センターでやる。実験費は科研費などで、自前で持って来て欲しい。

(d) STE 研報告(村木)

STE 研にはハードが無い。また独法化まで豊川の土地を keep したいためか、豊川と東山の統合がなかなかできない。

銀河宇宙線が雲を作るという論文があり、それに関連して宇宙線の量と雲の相関を調べることが話題になっている。所長は、今後 space weather, space climate が STE 研の仕事になると言っている。

(e) 日本物理学会領域代表者会議報告(村木)

領域代表者会議設置目的の説明を土岐理事より受けた。物理学会理事会には、全領域から代表者が出席していないので、今回のような「ビーム物理」という新領域・新分科を設置して欲しいと言う要求に公的に対処できないと判断したためである。

「ビーム物理」という新領域を作ることにつき議論した結果、3 年間の暫定期間として「新」領域という項目を作り、試行期間を置き発表数の増減をモニターして、3 年後に領域代表者会議でその存続を決めることにした。年会にのみ設置することになった。

今後新しい要求も出てくるのが考えられるので、基準が必要であるということになった。

(1) ボトムアップであること、(2) 200 人程度の集団がいて 40 個程度の研究発表がある今回の例を、参考にする事となった。「ナノ物理」「環境物理」の新領域も試行してはどうかと提案したがトップダウンはダメということになった。

秋の物理学会での物理学者の社会的責任のセッションでは Women in physics と OD 問題を取り上げる。

物理学会の年会をどうして大きな国立大学がやらないのか質問したところ、会場がたくさん取れない場合が多く無理であるとのことであった。

学会の参加料の 500 万円は講演集代に、あとの 500 万円はコンピューター化されたとはいえ、期限後に申し込んでくる人や、不備な申込みのチェックのため人手がいるので、その費用等に使っていて、トントンか赤字である。

もっと参加費を上げて(例えば 15,000 円)良質の内容を提供する学会にしてはどうかとの提案もあったが、まずは会員にアンケートで問い合わせることが重要であるということになった。今回秋の分科会が三つに分かれるので、予稿集のうち素粒子・宇宙線は、非常に薄くなる可能性があるのも、キチンと書いて欲しいとのことである。(将来は天文学会のように、予稿があらかじめ提出されていない申込みは受け付けられないという方法が良いかもしれない。)

尚、今回の領域代表者会議は、初めて開かれた臨時的側面もあり、任期は 9 月 30 日までである。新委員を送る必要があり、9 月 22 日の CRC 実行委員会で決め、物理学会で宇宙物理(理論)関係

も含めて了承をとりたい。任期は1年で、プログラム世話人と協議しながらシンポジウムや招待講演者を決める責任がある。物性分科会は13の領域代表者会議を開いているが、当面素粒子・原子核・宇宙線分野は代表者会議を開くという話にはなっていない。

(f) 物研連報告 (村木)

JLC 計画

JLC は日本の高エネルギー物理の次期基幹計画であり、基礎科学の幹になる計画である。KEK には JLC 推進の新しい体制ができた。LC 推進会議で加速器開発の報告会のまとめをつくる。TESLA は 3500 億円、JLC の経費見積りはまだ出ていない。JLC の Mile-stone は新推進体制で作る。2003 年までに調査費を要求する。Site の予備調査は安定な岩盤を仮定して行なった。Site の条件をサイト検討会がまとめている。アメリカでは LC が次期計画であるという Consensus はまだない。アジアの「セルン」にしたい。但しアジア諸国がどの程度財政負担をするかは不明。JLC の重要なコンポーネントのアジアでの量産は可能だろう。今後 JLC に関して行政の理解を得る努力をする。TESLA は XFEL をプロジェクトに組み込んでいるが、LC の技術を利用して LC とは別に建設したほうが安価でかつ速くできる。もちろん、JLC ができれば高エネルギービームを利用して近くに XFEL 建設が可能。

共同利用問題

これまで文部省傘下の共同利用研究機関における共同利用のための旅費・実験費などは研究機関がサポートしていた。今後、文部科学省になったことや、統合計画のこともあり、これまで科学技術庁傘下の共同利用がどの様に行なわれてきたのかを調べた。要約すると、実験装置の利用は結果を公開するとすれば経費を取らない。旅費・実験費は共同利用の概念がない場合には共同研究の形をとるなどの工夫をしてでも研究機関でサポートしている。それぞれ課題採択委員会で議論をして共同利用の課題採択している。

(g) 宇宙線研報告 (鈴木)

研究所の事務部が柏キャンパス統合事務部として改組・統合された。

4月13日に財務省原主計官一行の柏キャンパス視察があり、宇宙線研究所にも来られた。約30分間、研究所の研究概要を説明した。

次期の共同利用運営委員会所外メンバーの推薦を各グループに依頼している。

任期は本年9月16日から2年間である。共同利用研究実施専門委員会の所内委員を決めた。

現在、所内に4名の教官欠員がある。7月7日の共同利用運営委員会で審議して公募方針を決めた。7月18日の研究所教授会で報告ののち公募を始める。

文部科学省の調査検討部会が中間まとめの骨子を明らかにしたことにより、大学法人化問題が最終のつめに入っている。一大学一法人の枠組みで共同利用研究をどう位置づけるか、大型計画をどのように財政措置するか、という共同利用付置研にとっては死活に関わる大きな問題が積み残されたままである。研究所長懇談会と全国研究所長会議でアピールを採択して文部科学大臣に提出した。7月12日には、研究所の教授懇談会を開きこの問題に関して集中的に意見交換を行った。7月末には部局長と東大総長との個別ヒアリングが予定されており、秋に向けて法人化問題はやまばに入ると予想される。

----- < 議 事 等 > -----

(3) CRC 賞の選考委員の確認とその作業について (坂田)

CRC 賞の公募について議論を行ない、以下の事項について確認した。

募集のスタートは早くする。

応募書類に履歴書、論文リストを含める。

小研究グループからも候補者を出せて、それぞれが正当に評価されることが原則。大グループの出した良い結果をもとに個人が賞をもらうというのは良くない。本人の contribution を明確にすべきだ。

受賞者の人数は原則として1人である。

8月に公募を行なう。

受賞対象の分野は広い意味での宇宙線物理学とする。従って高宇連関係はすべて含まれる。前回は推薦理由は出さず公評だけ出したが、今回は推薦理由を出してもらおう。応募締め切り直後に審査員に書類を配布し、1ヵ月半後に会議を開く。前回の応募用紙には現在の所属を書く欄が無かったので、今回は作る。

CRC と高宇連に対して情報を流す。

賞の要綱を変える必要はない。募集要領を以下のように変える。

(1) 推薦理由は別紙にする。

(2) 論文リスト、研究歴を提出させる。

(奨励賞に論文リストは必要か? という議論もあったが、結論として出してもらおうことになった)

(4) 春の物理学会について

春の学会での宇宙線関連の講演内容について議論があり、結果としてSDSS、チベット、カンガルーの講演が良いという意見でまとまった。また南極での宇宙背景放射(3K)の観測結果に関するものはどうか、との意見も出た。

(5) 物理学会の領域代表の選出について

最初に村木委員長から領域代表の役割について、「領域代表は新領域を作るときに議論に参加したり、特別講演を決めるなど理事会で議論できないようなことをやるのが役目である。」との説明があった。

領域代表に選出方法について、以下のような意見が出された。

理論の人もいるのだから、ここ(CRC 実行委員会)で決めるのはおかしい。学会の世話人は、学会の時に理論の人を含めて決めている。

世話人を決める時と同じ手続きを踏んだほうが良い。

物理学会の代議員に選んでもらうのが適当ではないか。

代議員はまだ定着していない。

以上の意見を踏まえ、村木委員長が土岐理事と相談し、結果をメールで知らせることとした。

(6) 宇宙線研運営協議委員の推薦候補について

宇宙線研運営協議委員の候補として、CRC 実行委員の中から投票結果と分野を考慮して以下の5名を推薦することとした。

村木、谷森、柳田、坂田、川上 の各委員

共同利用研究 実施専門委員会

選挙結果に基づき以下の12名を推薦することとした。但し、選挙結果で7位の村木委員長は別枠で実施専門委員になる予定なので、村木氏を除き次点の櫻井氏を加えた12名とした。

松原 豊、柳田昭平、梶野文義、西嶋恭司、鳥居祥二、宗像一起、

水谷興平、郡司修一、谷森 達、川上三郎、柴田 徹、櫻井敬久

(7) 前年度引き継ぎ事項

CRC 実行委員の任期について

前回の実行委員会と同様「2年任期にして、1年ごとの半数改選が継続性があって良い。」などいろいろな意見が出た。また、この前の選挙から推薦制度が始まったが結果はどうだったのか、との質問があった。結論として、これについては今回は pending とし、来期までに決定することとなった。

名誉会員、OGOB 会員について

スタートした。

活性化について

以下のような意見交換があった。

各大学が主体的に参加できる形にしたい。

意見はいろいろ出ているのでまとめよう。

実行委員の中で、活性化について意見を出すようなワーキンググループを作って欲しい。

高エネルギーグループでもそういう事をやったが、当り前のことしか出なかった。具体案が無かった。一般論だけでは意味がない。具体案をださなければならない。宇宙線研でやっている事からめて出さないといけない。

「自分が何がやりたい」という具体的な目的があって初めて意味を持つことから、具体的なプロジェクトを出してしまったほうが良い。

やる気のある人が手を上げてくれるならそれが良い。

visibility というなら共同利用を中心にやらざるを得ない。研究の責任分担に応じて金を配分するようにできないか。

1人か2人しか宇宙線研究者がいない所では、周りから「何をやっているのか」と言われる。顔が見えない。

茨大では電波などもあるので状況はちがう。

プロジェクトタイプだと末端に科研費はいかない。天文の分野ではうまくやっている。

文部科学省は研究する大学、しない大学を作ろうとしている。極端な事を言えば、科研費の申請をできなくなる大学がでてくるのではないか。

対処療法は必要だろう。ベスト30校にしぼるといようなことが言われているが、それは無理だろう。ただそれとは別に大学を4つくらいのランクに分けるという案はある。

地方大学では多いところでも3人くらいの宇宙線研究者しかいない。それが研究できなくなったら良くない。

地方国立大では校費が減らされている。本代も減っている。

宇宙線は学問評価のとき「物理学」ではなく「天文学」に入れられている。評価が下がるのではないか。

それにはあまりこだわっていない。

大学の切り捨てが行なわれているときに、物研連で今後の物理、基礎科学は大丈夫なのか。声明かなにかだせないか。

反対するだけでは逆効果ではないか。

地方大学にある basic なものをどうするか。

昔に比べると、現在のほうが中小大学の寄与が relative には増えているのではないか。

(8) 将来計画について

以下のような意見があった。

CRC として何かまとめて示した方が良い。

宇宙線研では、TA、重力波、ハイパーカミオカンデと順番は決まっている。

歴史的には、宇宙線研主催で将来計画シンポジウムを開き、CRC 公認で TA、重力波という順番を決めたと理解している。シンポジウムの後、戸塚所長(当時)から、TA を概算要求で、カンガルーは大型科研費で、重力波はもう少し長期的に考える、という方針が示された。戸塚所長の出した4本柱はニュートリノ、高エネルギー、最高エネルギー、重力波であった。

TA とか重力波がどうなるかわからないのに、将来計画を議論できない。将来計画について研究会か何か開いてから議論したらどうか。

TA と重力波だけではなく、CRC としてその他のプロジェクトを出して、それを実現させるためのアクションを起こしたらどうか。

プロジェクトは宇宙線研で行ない、他は COE など活用してやっていけば良い。

STE 研に対して南米高地に宇宙線観測ステーションを設置する要求を出した件につき、議論があった。

この要求は宇宙線研で実現できないものを他(例えば STE 研)で実現しませんか、という趣旨で出したものである。

今まで CRC は ICRR のみを共同利用研だと思ってやってきたが、STE 研も共同利用研だと思えば良い。ただ似たようなものを2箇所から出してバッティングするのは良くない。

宇宙線研は大型プロジェクトをやる研究所になっている。例えば、非加速器物理は宇宙線研でやって、宇宙関係は STE 研に持っていくという案もある。

部門を STE 研に移すという事か？

そうではない。

プロジェクト研究ばかりが並んでいると各大学はやりにくい。独法化になれば共同利用研のプロジェクトでやると、それは研究所の成果になる。

中小のプロジェクトで面白いものを STE 研でやるのは結構ではないか。

TA についてオブザーバー参加の手嶋、佐々木両氏を交え、現状および今後の諸問題について報告と意見交換が行われた。

NASDA、ステーション関係について鳥居委員から以下のような報告があった。

AMS については、NASA は打ち上げと装置維持の費用を負担するが、装置自身の開発、製作費用は負担しない事となった。このため DOE と各大学、研究機関が費用を負担して共同で製作を行っている。現在では、ヨーロッパの寄与がかなり大きくなっている。

AMS は、当初の予想からかなり遅れているが、今のところ 2005 年に搭載される予定である。これは、ステーション全体の計画が遅れていることが原因で、日本のきぼう (JEM) もこの頃に完成する予定である。NASA は最近ステーションの予算を大幅にカットしているが、AMS は装置開発の予算が自前なので、その影響は相対的に少ない。

JEM 暴露部の初期利用ミッションとして選定されている 4 つのミッション (MAXI を含む) は、2005 年から 2006 年にかけて実施されることが決まっている。その後の計画については、1 ないし 2 のミッションの AO (Announcement of opportunity) を NASDA が出す予定である。宇宙科学については、高エネルギー宇宙線観測、MAXI の発展型装置による X 線全天サーベール観測が有力な候補になっている。現在の行政改革や省庁統合で、NASDA がいつ AO が出せるかは不透明であるが、1,2 年をめどに検討されている。生物、無重量、材料などのテーマは船内実験であり、一つ一つの規模が小さいので各研究機関が独自に開発できるが、宇宙、地球科学などのテーマは規模が大きいので、NASDA が主導してやる以外に実現の可能性はない。

我々は、NASDA から AO がでた段階で、宇宙電子、ガンマ線観測 (CALET) を提案する準備を進めているが、これには研究者コミュニティのサポートが是非必要である。直接的な参加のほかにも、CRC などからの推薦をうけることが大きなサポートとなる。

これまでの経過から、ステーションに関係する研究は、宇宙科学であっても NASDA がサポートすることになるであろう。

NASDA は、ステーションへの輸送機として H2A を改良した HTV を計画している。

これまで宇宙科学は宇宙研が担当しており、宇宙研の理学委員会での了解が不可欠であった。

この状況は今後もあまり変わらないと思われる。宇宙開発委員会は、これまで宇宙研、NASDA など宇宙機関の計画を承認する役目を担っていたが、省庁再編でその役割が変更になった。

(資料-1) 「CRC News」メール配信

委員会報告 ; 8 件

- 4 月 04 日、素核研 (KEK) 運営協議会報告
- 4 月 12 日、<会報>平成 12 年度第 4 回 CRC 実行委員会議事要録
- 4 月 23 日、物理学研究連絡委員会議事録 (第 18 期 : 第 1 回)
- 4 月 24 日、<会報>平成 12 年度第 2 回 CRC 総会議事要録
- 4 月 26 日、KEK 運協報告
- 5 月 01 日、原子核専門委員会委員議事録 (案)(第 18 期 : 第 2 回)
- 6 月 19 日、第 24 回 KEK 運協報告
- 7 月 09 日、<会報>日本物理学会領域代表者会議報告

公募案内 ; 7 件

- 4 月 04 日、第 3 回高エネルギー物理学奨励賞 推薦及び応募
- 4 月 26 日、千葉大学理学部物理学助教授公募
- 6 月 04 日、KEK COE 研究員公募
- 6 月 04 日、KEK 非常勤研究員公募
- 6 月 11 日、KEK・加速器 教授公募
- 6 月 11 日、KEK・加速器 助手公募

- 6月21日、東京都立大学物理教授公募
研究会案内；12件
- 4月11日、A Long Baseline Neutrino Oscillation Experiment Workshop
 - 4月30日、第6回特定・宇宙ニュートリノ研究会
 - 5月16日、Geant4 ユーザ会ワークショップ
 - 5月21日、Particles and Nuclei International Conference
 - 5月21日、Neutrino Factories based on Muon Storage Rings 2001
 - 5月24日、最高エネルギー宇宙線（EHECR）の研究会
 - 5月28日、最高エネルギー宇宙線（EHECR）研究会
 - 6月04日、The 5th KEK Topical Conference
 - 6月04日、EHECR研究会 second circular
 - 6月09日、特定・宇宙ニュートリノ第7回研究会のお知らせ、および講演募集
 - 6月25日、宇宙ステーション利用計画ワークショップ
 - 6月30日、高エネルギー宇宙物理連絡会 第2回研究会のお知らせ
- その他のお知らせ；9件
- 4月16日、2001年度CRC選挙 推薦掲示板公開
 - 4月24日、CRC選挙の投票呼びかけ
 - 4月26日、CRC選挙の投票呼びかけ
 - 5月08日、平成13年度CRC選挙の開票結果
 - 5月14日、「CRC会員名簿」更新のお知らせ
 - 6月12日、ICRR ニュース最新号(45号)のお知らせ
 - 6月19日、宇宙線研・柏間の高速バス運行のお知らせ
 - 7月02日、Bファクトリーの性能向上について
 - 7月10日、訃報：宮村 修 教授 ご逝去
-

*** < 第2回(2001年度)宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集 > ***

CRC 会員 各位

2001年7月30日
CRC 実行委員長 村木 綏
CRC 事務局 弘前大学 南條宏肇

第2回(2001年度)宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集について

下記の要領で「第2回 宇宙線物理学奨励賞」の対象候補者と論文の募集を行います。
この募集記事は CRC Homepage <http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/CRC/> にも掲載しています。

宇宙線物理学奨励賞要綱 (2000.7.15 実行委員会制定)

1. 賞の趣旨
広い意味の宇宙線物理学の優れた若い研究者を褒賞し、宇宙線物理学の将来の発展に資するため、宇宙線物理学奨励賞を設ける。
2. 賞の対象分野
対象分野は広い意味での宇宙線物理学とする。
3. 賞の選考委員会
選考委員と同委員長は宇宙線研究者会議(CRC)実行委員会を選出し、構成は、
宇宙線関係者：選考委員長を含む3名、
理論関係者：1名、
高エネルギー実験関係者：1名、
天文学関係者：1名
とする。
4. 賞の候補者の募集
賞の候補者はCRC会員による推薦、または本人の自薦により募る。
5. 対象者は、過去5年間に奨励に値する論文を発表したもののうち、将来重要な貢献が期待できる研究者とする。
6. 1年に1回の選考とし、賞の授与は各回原則として1名までとする。該当者がいない場合もある。
7. 公表時(脚注)35才以下の若手による論文を対象とする。ただし、学位論文を重視する。共同研究に基づく論文では、対象者の寄与が本質的であることとする。
8. 賞状と賞金をCRCより贈呈する。賞金の額はCRC実行委員会が別に定める。
9. 講演
受賞者は原則として受賞後の物理学会で特別講演を行なうこととする。
10. 選考日程
締め切りは原則として9月末日、選考は10月~11月の間に行ない、11月末に結果を発表する。春の宇宙線研究者会議総会で授与式を行なう。

(脚注) 博士論文は審査を通過した時点、ほかの論文は雑誌に掲載もしくはプレプリントが発行された時点とする。

第 2 回 (2001 年度) 宇宙線物理学奨励賞受賞候補者 募集要領

記

1. 推薦締切 2001 年 9 月 30 日
2. 対象者及び論文
1996 年 4 月 1 日より 2001 年 9 月 30 日の間に公表された論文 (要綱参照のこと) で、公表時の対象者の年齢が 35 才以下であること。
3. 推薦・応募手続き
添付の「推薦応募用紙」に必要事項を記入し、
過去 5 年間以内の論文リスト、
研究略歴、
対象論文の別刷りまたはコピー 1 部 と共に、下記に送付、提出のこと。
4. 提出先 CRC 事務局
宛先氏名：南條宏肇
宛先住所：〒 036-8561 弘前市文京町 3 弘前大学工学部
電 話：0172-39-3546
(問い合わせは：CRC 事務局 弘前大学 南條宏肇 市村雅一
E-mail：ichimu@cc.hirosaki-u.ac.jp
電 話：0172-39-3546 (南條研究室))
5. 発表 2001 年 12 月頃、CRC ニュースにて発表

宇宙線物理学奨励賞 推薦応募用紙

対象者 氏 名 _____

現所属 _____

生年月日 _____

対象論文 題名 _____

種 類 (博士論文・プレプリント・雑誌) _____

公表日 _____
(博士論文の場合は正式審査を通過した時点)

推薦又は自薦の理由、連名の論文の場合は対象者の寄与を、A4 版 1 枚程度に書いたものを添付すること。

***** < 平成 13 年度第 2 回 CRC 実行委員会 議事要録 > *****

日 時：平成 13 年 9 月 22 日 午後 5 時 15 分～午後 5 時 40 分

場 所：沖縄国際大学 日本物理学会 SE 会場

出席者：村木 綏 (名大 STE 研：委員長)、水谷興平 (埼玉大)、鳥居祥二 (神奈川大)、
坂田通徳 (甲南大)、福島正己 (ICRR)、神田展行 (宮城教育大)、谷森 達 (京大)、
吉越貴紀 (大阪市大)、荻尾彰一 (東工大)、川上三郎 (大阪市大)：以上委員、
市村雅一 (弘前大事務局)、林田直明 (ICRR 事務局)

(1) 入退会希望

以下 2 名の入会希望者についての紹介があり、入会が承認された。

斎藤武彦 (Max-Planck-Inst. Postdoc 研究員) 自薦 (前回実行委員会 継続)

山本 明 (KEK) 推薦者：野崎光昭、西村 純

(研究歴)：1972-1983 高エネルギー加速器・大強度 K 中間子ビームに関する研究。

1985- 高性能の素粒子物理実験用超伝導マグネットの開発。

気球による宇宙線観測器 BESS の開発および実験。

「宇宙線観測用超伝導マグネチックスペクトロメーターの開発と反陽子の
観測」により、折戸教授と共に、昨年仁科賞を受賞。

退会希望者はなかった。

(2) OBOG 会員

本人からの退会申出後、「OBOG 会員制度」を知らせた結果、以下の 2 名の方が来年度から
OBOG 会員になることを希望された。

会津英子 ; (7/31 申出)、 村山 喬 ; (8/01 申出)

2 名とも来年度から OBOG 会員へ移行する事が承認された。

(3) 会計報告 (2001.09.17 現在 概算) (林田)

残金 76 万円 (会費完納率 60 %)

支出予定 ; 実行委旅費 25 万円

連絡誌 30

奨励賞 1 人 10

(4) CRC 活動報告 (林田)

(a) 7 月 13 日 ; 平成 13 年度第 1 回 CRC 実行委員会

(b) 7 月 30 日、第 2 回 (2001 年度) 宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集

(c) 「CRC News」メール配信

委員会報告 ; 1 件

9 月 11 日、平成 13 年度第 1 回 CRC 実行委員会 議事要録

公募案内 ; 9 件

7 月 25 日、KEK 加速器・助手 / COE 公募締切迫

7 月 30 日、第 2 回 (2001 年度) 宇宙線物理学奨励賞受賞候補者の募集

7 月 30 日、東京大学宇宙線研究所教官公募

7 月 31 日、大阪市立大学理学数物系教授公募

8 月 08 日、立教大学理学部物理学科教員公募

8 月 08 日、立教大学理学部物理学科 (理論) 教員公募

8 月 29 日、KEK 加速器助教授公募 3 件 (01-4,5,6)

9 月 03 日、山形大学理学部物理学科教官公募

- 9月14日、東大物性研 加速器助手公募（締切迫る）
研究会案内；5件
7月12日、特定(A)「ニュートリノ振動とその起源の解明」研究成果発表会
7月25日、高エネルギー宇宙物理連絡会 第2回研究会
8月02日、Tamura International School on Neutrino Physics
9月10日、The first bulletin of Xenon01 Workshop
9月17日、ICRR 宇宙線共同利用成果発表会のお知らせ
その他のお知らせ；3件
7月31日、乗鞍観測所の電話 (Fax) 番号変更
9月14日、ICRR ニュース 46号 (オンライン版)のお知らせ
9月17日、CRC 総会のご案内

- (5) CRC 総会 (9/23) 準備に関して
(a) CRC 総会議長の推薦：吉越委員を推薦することとした。
(b) 日本物理学会領域代表者にはCRC 実行委員長を推薦することとし、宇宙線分科会全体懇談会へ提案することとなった。
(c) 事務局報告、CRC 関連研究所、研究組織報告事項について確認した。
(d) 将来計画について、TA、AGASA、HiRes の問題や、今後の大プロジェクトの可能性について、関連研究所をとりまく状況を踏まえて議論することとした。
(e) 総会での委員会報告のあり方について議論があり、委員会報告の内容を予めメールで配信しておき、当日は意見だけ聞くようにして時間を有効に使えるよう改善していく事で意見が一致した。
- (6) 次回学会でのシンポジウムの内容について
衛星や気球によるプロジェクトを含めたものにするなど、ISAS、ICR、NASDA をリンクするような内容にする事で意見が一致した。具体的には荻尾委員が中心となり鳥居、谷森両委員と議論して内容を詰めることとした。

CRC Homepage 速報-265 , CRC News No.329 ; 2002年01月07日配信

***** < 平成13年度第2回 CRC 総会 議事要録 > *****

日 時：平成13年9月23日 午後5時15分～午後6時40分

場 所：沖縄国際大学 日本物理学会 SE会場

出席者：(敬称略五十音順) 安野志津子、市村雅一、伊藤好孝、内堀幸夫、榎本良治、大橋正健、奥村公宏、梶田隆章、片桐秀明、金行健治、神谷美子、川上三郎、神田展行、櫛田淳子、黒田和明、郡司修一、河内明子、小島浩司、小早川恵三、坂田通徳、櫻井敬久、櫻井信之、さこ隆志、佐々木真人、辰巳大輔、谷森達、土屋兼一、寺田聡一、中畑雅行、永吉勉、西嶋恭司、林田直明、原敏、晴山慎、福島正己、堀田直己、増田公明、松原豊、三浦真、水谷興平、三代木伸二、村木 綏、山本嘉昭、湯田利典、吉越貴紀、吉村太彦、吉森正人 (以上47名)

(1) 議長選出

実行委員会からの推薦で、吉越貴紀氏にお願いした。

(2) CRC 事務局報告 (林田)

(a) 訃報

7月10日、広島大学理学部の宮村 修 教授がご逝去されました。
謹んで、ご冥福をお祈り致します。

(b) 新入会員紹介

以下3名の新入会員が紹介された。

瀧田正人 (宇宙線研、エマルジョン部 助教授) 推薦者: 湯田利典、大西宗博
(研究歴): 1983-1993 神岡実験の建設とニュートリノ物理や核子崩壊の研究。
1994-2001 スーパー神岡実験で建設と大気ニュートリノ起源の上向き
ミューオンの解析。

2001- Tibet AS γ 実験で高エネルギー宇宙線の研究を開始。

斎藤武彦 (Max-Planck-Inst. Postdoc 研究員) 推薦者: 谷森 達、村木 綏
(研究歴): Master in Univ. of Tsukuba for study of the nuclear structure on
A ~ 190 nuclei. Ph.D. in the Niels Bohr Inst. Univ. of Copenhagen
in 1999 for the experimental study of nuclear structures of
A ~ 180 nuclei. The Brookhaven National Laboratory in NY to work
for the LEGS spin collaboration. Since Jan 2001, working in
the Max-Planck-Institute fuer Kernphysik for the H.E.S.S. project.

山本 明 (KEK) 推薦者: 野崎光昭、西村 純
(研究歴): 1972-1983 高エネルギー加速器・大強度 K 中間子ビームに関する研究。
1985-高性能の素粒子物理実験用超伝導マグネットの開発。
気球による宇宙線観測器 BESS の開発および実験。
「宇宙線観測用超伝導マグネチックスペクトロメーターの開発と反陽子の
観測」により、折戸教授と共に、昨年仁科賞を受賞。

退会希望者はなかった。

(c) OBOG 会員

平成 12 年度退会者、今年度退会申し出者、及び通信会員の有資格者に、「OBOG 会員」への
移行を希望するかどうか、問い合わせた結果、

勝俣五男：元通信会員

川崎信吉：元通信会員

森 覚：

都築嘉弘：

会津英子；来年度から移行

村山 喬；来年度から移行

の6名の方が移行を希望され、実行委員会で承認された。

(d) 会計報告 (2001.09.17 現在 概算)

残金	76 万円 (会費完納率 60 %)
支出予定；実行委旅費	25 万円
連絡誌	30
奨励賞 1 人	10

(e) CRC 活動報告

- (1) 4月 9日；CRC 連絡誌 No.282、速報 5号 発行郵送
- (2) 4月 9日；CRC 選挙公示
4月 10日；選挙推薦公募
4月 16日；選挙推薦掲示板公開
4月 17日；メール選挙用紙配布
4月 27日；投票ノ切
5月 7日；開票
- (3) 7月 11日；宮村修様御遺族様へ弔電
- (4) 7月 12日；速報 6号 発行郵送
- (5) 7月 13日；平成 13 年度第 1 回 CRC 実行委員会
- (6) 7月 30日；第 2 回 (2001 年度) 宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集

(7) 随時 ; CRC News 配信

(f) 平成 13 年度 CRC 選挙の開票結果

開票日 ; 2001 年 5 月 7 日 (月)
事務局 ; 大西宗博、林田直明
立会人 ; 川田和正 (甲南大)
定足数 ; 108 (有権者数 324)
有効投票数 ; 131 (郵便 34, Email 97)

(1)[CRC 実行委員会委員長]

順位	氏名	得票	所属機関
1	村木 綏	67	名古屋大
次点	川上三郎	16	大阪市立大
その他		36	
白票		12	

以上の結果、村木 綏 氏が委員長に選ばれた (1 期目)。

(2)[CRC 実行委員会委員] (定員 12 名)

当選順位	氏名	得票	所属機関	備考
当選 1	谷森 達	51	京都大	前委員
当選 2	柳田昭平	42	茨城大	
当選 3	坂田通徳	41	甲南大	前委員
当選 4	鳥居祥二	40	神奈川大	前委員
当選 5	福島正己	35	宇宙線研	同一機関 1 位
当選 5	鈴木洋一郎	35	宇宙線研	同一機関 2 位
当選 7	神田展行	33	宮城教育大	前委員
	手嶋政廣	30	宇宙線研	同一機関 3 位
当選 8	川上三郎	27	大阪市立大	同一機関 1 位
当選 9	水谷興平	25	埼玉大	前委員
当選 10	荻尾彰一	23	東京工業大	
当選 11	宗像一起	22	信州大	前委員
	太田 周	20	宇都宮大	前委員 7 位
	森 正樹	19	宇宙線研	同一機関 4 位
	榎本良治	18	宇宙線研	同一機関 5 位
当選 12	吉越貴紀	17	大阪市立大	同一機関 2 位
	村木 綏	15	名古屋大	前委員 8 位
	梶田隆章	15	宇宙線研	同一機関 6 位
	松岡 勝	14	宇宙開発事業団	前委員 9 位
次点補欠	郡司修一	13	山形大	ジャンケン
次次点補欠	井上直也	13	埼玉大	ジャンケン
	その他	221		
	白票	69		

以上の結果、上記の当選 12 位までの 12 名の方が委員に選ばれた。

(注 1) 委員長に投票された次点以下の方の票 (52 票) は、委員の票に加算される。

(注 2) 「同一機関から選ばれる委員の数は、2 名を越えることはできない」規定により、宇宙線研の手嶋政廣氏、榎本良治氏、森正樹氏、梶田隆章氏は委員とならない。

(注 3) 「委員 12 名中、前年度委員が 6 名を越えることはできない」規定により、前委員の太田周氏、村木綏氏、松岡勝氏は委員とならない。

(注 4) 「同票の場合は、本人に連絡のうえ、くじ引きにより決定する」規定により、メールジャンケンを実施して勝者を次点補欠とした。

(3)[東京大学宇宙線研究所 共同利用研究 実施専門委員会委員 (宇宙線分野の所外委員)
推薦候補者の選挙] (定員 12 名)

推薦順位	氏名	得票	所属機関	備考
推薦 1 .	松原 豊	37	名古屋大	
推薦 2 .	柳田昭平	28	茨城大	
推薦 3 .	梶野文義	27	甲南大	
推薦 4 .	西嶋恭司	25	東海大	
推薦 5 .	鳥居祥二	22	神奈川大	
推薦 6 .	宗像一起	19	信州大	
推薦 7 .	村木 綏	18	名古屋大	
推薦 8 .	水谷興平	17	埼玉大	
推薦 9 .	郡司修一	16	山形大	
推薦 10 .	谷森 達	15	京都大	
推薦 10 .	川上三郎	15	大阪市立大	
推薦 12 .	柴田 徹	12	青山学院大	ジャンケン
次点補欠	櫻井敬久	12	山形大	ジャンケン
次次点補欠	坂田通徳	11	甲南大	
次次点補欠	吉越貴紀	11	大阪市立大	
	その他	201		
	白 票	144		

以上の結果、上記の推薦 12 位までの 12 名の方が候補者として推薦された。

(注 1) 以上は「所外委員は、同一機関からの選出を 2 名以内とする」規定に、かなっている。

(注 2) 「同票の場合は、本人に連絡のうえ、くじ引きにより決定する」規定により、
メールジャンケンを実施して勝者を推薦 12 位とした。

(3)CRC 関連研究所、研究組織報告

(a)ICR 所長報告 (吉村所長)

研究所の事務部が柏キャンパス統合事務部として本年 4 月から改組・統合された。

7 月 7 日に共同利用運営委員会を柏キャンパスにて開催した。本年度は、共同利用査定が 3 月に済んでいるために、例年より遅い開催となった。議事内容は、研究所の活動報告、人事公募などである。

8 月 2 日に研究所協議会を開催した。研究所研究活動、概算要求、などにつき説明し、意見を頂いた。

次期の共同利用運営委員会所外メンバーの推薦を各グループから受け、

以下の様に決定した。(敬称略)

宇宙線分野 : 村木 綏、谷森 達、坂田通徳、川上三郎

宇宙物理 : 高原文郎

高エネルギー : 渡辺 精

核物理 : 本林 透

理論 : 坂井典祐

東大理学系研究科 : 相原博昭

なお、所内委員は、戸塚、鈴木、福島、黒田、滝田、吉村、の 6 名。

任期は本年 9 月 16 日から 2 年間である。

共同利用研究実施専門委員会の所内、所外委員を以下のように決定した。

所外委員 : 村木 綏 (委員長)、松原 豊、柳田昭平、梶野文義、西嶋恭司、鳥居祥二、
宗像一起、水谷興平、桜井敬久

所内委員 : 滝田 (幹事)、金行、佐々木、森、大橋、関口

教官公募について : 現在、所内に 4 名の教官欠員がある。共運委、教授会で以下の公募を決

めた。公募分野は、カンガルー：教授1名、理論：助教授1名、神岡：助手1名、
TA：助手1名。10月31日(水)必着。

概算要求1位のテレスコープアレイは本予算で財務省に出なかったが、まだ補正予算の可能性もあり、学術機関課と連絡して、予算獲得に努力している。

今年度ターに維持費みたいなものを出すのがあったが、そのことはどうなるのか。前の重点領域みたいに終わったらそれまでで切られてしまうと、大きなものを作ったはいいけど維持費は0になってしまって困る。

A. 私の理解では、今まで年度内に成果を出す事が求められていたが、今後は必ずしも期間内に成果を出さなくても良くなるのではないかと思う。例えば維持費も含めて再申請できるとか、いろいろな自由度が増えつつあるのではないか。

Q. 共同利用についてのヒアリングがあったようだが、内容を聞かせて欲しい。

A. 時間としては40~50分行った。こちらからは以下の2点を強調した。

1) ICRは特殊な研究所で、キャンパスにはハードをほとんど持っていない。

宇宙線の観測点が日本各地、世界各地に存在している。

2) 大型の基礎研究を行っているので、法人化等によって受ける影響を心配している。また、共同利用については、様々な機会をとらえて文科省や総長に説明し理解を求める努力をしている。

(b) 第28回国際会議事務局報告(梶田) 春の学会以降

4月に宇宙線研究所が主催となる事を決定した。

5月17日に第5回宇宙線国際会議準備委員会を開催し、組織委員会委員、プログラム編成委員それぞれの候補を以下のように選出した。

* 組織委員会委員

吉村(Chair)、梶田(Co-chair)、手嶋(Secretary)、佐々木、森、金行、大橋、瀧田、伊藤(以上宇宙線研)、谷森(京都大)、松原(名古屋大)、吉越(大阪市大)、吉田(KEK)

* プログラム編成委員 OG: 福島(宇宙線研、Chair)、木舟(信州大)、柴田(青学大)、高原(大阪大)、松岡(宇宙開発事業団)、柳田(茨城大)、SH: 寺沢(東大、Chair)、桜井(山形大)、宗像(信州大)、村木(名古屋大)、HE: 湯田(名古屋大、Chair)、荒船(大学評価学位授与機構)、笠原(芝浦工大)、鈴木(宇宙線研)、戸塚(宇宙線研)、中村(KEK)、重力: 黒田(宇宙線研、Chair)、中村(京都大)、

* LOCからの委員: 梶田(宇宙線研)

その後、全ての候補に承諾頂き、最終的に委員が決定した。

7月18日に第1回組織委員会を開催した。主な議題は以下の通り。

(1) ハンブルグにおける次回の宇宙線国際会議の宣伝について

(2) 宇宙線国際会議の調査について

これらの議論に基づき、ハンブルグではポスター500枚と筑波会場、東京のパンフレット各200枚を持って行き配布した。またハンブルグの組織委員会のメンバーと議論を行った

(c) 諸報告(村木)

(1) 宇宙線研究所関連

12月10日、11日に実施専門委員会主催で共同利用の研究成果発表会が行われる予定である。

2005年のICRCはインドで開催されることが決定した。

(2) 物理学会領域代表者会議報告

Beam物理分科会を年会に限り設置することを承認した。

物理学者に社会的責任について議論があった。

(3) 物研連報告

機関にまたがる研究のあり方に関するワーキンググループを作ることとなった。

(4) STE 研報告

外部評価のためのシンポジウムが実施された。

所長選考委員会が作られた。

(5) KEK 報告

素粒子原子核研究計画委員会が始まった。

(6)RCNP 報告

Spring-8 のビームの共同利用ができるようになった。

(7)CRC 実行委員会報告

活性化の問題や、STE 研を中心とした中規模研究計画等について議論があった。

また来年春の宇宙線シンポジウムの題名について議論があり、NASDA、ISAS、ICR がリンクする様な内容にしたいということとなった。

(d) 活性化について (坂田)

まず前回、前々回の CRC 実行委員会の議事録をもとに、議論の要点が報告された。特に、

- 1) 共同利用の定義として「共同プロジェクト型」と「共同利用型」とがある、
 - 2) どちらの場合も個々の大学が各段階で visible になるようにしていく必要がある、
- 等の点が強調された。続いて今後の課題として、以下のようなまとめが報告された。
80 年～95 年の間は ICRR の活性化が行われたが、現在から今後にかけては「各大学の活性化の時代」である。各大学活性化のためには以下のような課題が重要である。

- (1) 各大学の visibility を上げる。
- (2) 各大学独自の project、試み、小規模プランなどを発展・開発していく。
- (3) 共同の大プロジェクトを作る。そのために共同研究の形態の組合せや、実行していくための良い組織を策定することも重要。
- (4) 共同利用化の拡大をはかる。

CRC 会員からの意見を集積する。

各大学や ICRR で現在行われている計画のチェックをしながら、次期共同研究プロジェクトの策定を行う。

(4) 宇宙線将来計画

まず村木 CRC 実行委員長から次のような問題提起があった。

最も大事なことは TA をどう進めていくかということだ。我々としては TA がベストであるかどうかを常に見ておかなければならない。ハンブルグでユタのグループが、HiRes の観測結果として「GZK cut-off より高いエネルギーの粒子はない」という AGASA と違う結果を出した。この問題について 11 月 29 日に開かれる実施専門委員会で AGASA、TA の人に答えてもらう予定である。これに関して CRC 総会で意見交換をしたい。

引き続き以下のような意見交換があった。

AGASA は信頼性を上げようと努力している。一方 HiRes の結果は解析の仕方が極めて不完全である。本来ステレオで解析する筈が、できていない。モノでやっていると距離を決めるのは難しい。私の意見では、この理由は 2 つある。1 つは HiRes が軍の基地の中にあるために生じる様々な問題があるため。もうひとつはエレキに失敗していて不完全なステレオになっているためである。実際この 2 年間ほとんどがステレオで観測できていない。TA はきちんとステレオ観測するのでその点は問題ない。今問題になっているのは方法論ではなく、上の様な理由から生じているものである。現状で 2 つのグループの結果が矛盾するのは事実である。

複数の方法で 1 つのスペクトルを確認する事は極めて重要である。

また、このような議論に埋もれてしまっているが、ハンブルグで AGASA がしたクラスタイベントの話は重要である。GCR がポイント的なソースから来ているとわかれば画期的なことだ。このような状況の中で、是非 TA をサポートして頂きたい。

TA は現時点で何もデータを持っていない。その状態で Fly's eye を批判しても説得力が無い。TA が始まる時は、1) どのグループが観測しても GZK カットオフ以上にスペクトルが延びている、2) fluorescence 法は確立した、という 2 つを前提に proposal を出したと思う。しかしハベラパークと Fly's eye はカットオフがあると言い出し、fluorescence 法で絶対値が本当に決まるのか？という疑問も出ている。我々にはどちらが正しいかわからないが、現時点で問題が出ているのに、放置しておいて、後で「成果が上がりませんでした、Auger にたちうちできませんでした」ではまずい。

カットオフがあると言っているのはモノで観測している HiResI だけである。HiResI は正しい fluorescence のやり方をしていない。HiResI だけが問題なのであって、これを矛盾というのは正しくないと思う。

大前提がくずれているのにこのまま出すのは、学者としての良識を問われると思うので、このまま TA を出すことには反対だ。

HiResI は不完全である、だからステレオにして観測しよう、ということだ。

我々にはどちらが正しいかわからない。HiResI が正しくないというなら、それは科学的手法をもって示さなければならない。

Fly's eye の人達も基本的に TA の collaborator なのだから、中できちんと議論をして、クリアな説明をすることはできないのか。

将来計画小委員会を発足してもう一度整理してはどうか。

実施専門委員会がその役割をしてくれると期待している。

客観的な議論をしないと外に対して説得力がない。

11 月くらいまでに HiRes のグループと TA の人達で良い方向にいく様に話し合いはできるのか話し合いはできると思うが、最終的には HiRes がきちんとしたデータを出すよりないと思う。

HiRes は HiRes で彼らの結果を出すよりないし、我々は我々の結果を出すよりない。

問題提起をした村木委員長は何か案があって提案されたのか。

11 月に開かれる宇宙線研の実施専門委員会で決着をつけたいと考えている。

(この問題は 11 月 28 日の実施専門委員会とその後開催された手嶋氏の宇宙線研究所コロキウムで一応の決着がついたと委員長は判断しています。この問題は 2 月 5 日に開催される宇宙線研のシンポでも再度紹介されます。)

大事なものはきちんと議論してそれを残しておくことだ。そうしておけば何かあった時にも対応できる。

グランサツソで開かれた会議に出席したが、そこでは HiRes で皆さんが納得したという印象はなかった。fluorescence 法は不安定なのではないか、AGASA のほうが確実な方法だ、という意見が多かったように思う。

TA、AGASA 関連の議論はここまでとし、続きは実施専門委員会でやってもらうこととした。

引き続いて村木 CRC 実行委員長から「宇宙線将来計画について(草案)」が配布された。

ここで宇宙線研吉村所長に対し以下のような質疑、応答があった。

- Q. 宇宙線研究所の規模で概算要求に際して適正な予算というのはあるのか？ 一生懸命旗を振っても現実的に無理ならば組織が維持できないと思うので、そういうものがあれば教えて頂きたい。
- A. そういう意味での額を行政レベルが設定しているかどうかは良くわからない。ただ現実的にこの問題は法人化などでこれから組織が変わっていくときにどうなるかということだと思う。これから宇宙線研究所の規模で 200 億か 300 億とかの額が概算要求という形でいく事はないだろう。何十億どまりなのか百何十億なのかと言われればそれはわからない。具体的な額を行政側から言われたことはない。ICRR は super K もあり、立派だという認識は行政サイドにもある。しかし何百億をこえるものが今後 ICRR でできるとは思わない。

(資料-1) 「CRC News」メール配信

委員会報告；9 件

- 4 月 4 日、素核研(KEK)運営協議会報告
- 4 月 12 日、<会報>平成 12 年度第 4 回 CRC 実行委員会議事要録
- 4 月 23 日、物理学研究連絡委員会議事録(第 18 期：第 1 回)
- 4 月 24 日、<会報>平成 12 年度第 2 回 CRC 総会議事要録
- 4 月 26 日、KEK 運協報告
- 5 月 1 日、原子核専門委員会委員議事録(案)(第 18 期：第 2 回)
- 6 月 19 日、第 24 回 KEK 運協報告
- 7 月 9 日、<会報>日本物理学会領域代表者会議報告
- 9 月 11 日、<会報>平成 13 年度第 1 回 CRC 実行委員会 議事要録

公募案内；16件

- 4月4日、第3回高エネルギー物理学奨励賞 推薦及び応募
- 4月26日、千葉大学理学部物理学科助教授公募
- 6月4日、KEK COE 研究員公募
- 6月4日、KEK 非常勤研究員公募
- 6月11日、KEK・加速器 教授公募
- 6月11日、KEK・加速器 助手公募
- 6月21日、東京都立大学物理教授公募
- 7月25日、KEK 加速器・助手 / COE 公募締切迫る
- 7月30日、第2回(2001年度)宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集
- 7月30日、東京大学宇宙線研究所教官公募
- 7月31日、大阪市立大学理学数物系教授公募
- 8月8日、立教大学理学部物理学科教員公募
- 8月8日、立教大学理学部物理学科(理論)教員公募
- 8月29日、KEK 加速器助教授公募3件(01-4,5,6)
- 9月3日、山形大学理学部物理学科教官公募
- 9月14日、東大物性研 加速器助手公募(締切迫る)

研究会案内；17件

- 4月11日、Inter. Workshop "A Long Baseline Neutrino Oscillation Experiment from JHF 50GeV PS to Super-Kamiokande"
- 4月30日、第6回特定・宇宙ニュートリノ研究会
- 5月16日、Geant4 ユーザ会ワークショップ
- 5月21日、Particles and Nuclei International Conference
- 5月21日、Neutrino Factories based on Muon Storage Rings 2001 (NuFACT'01)
- 5月24日、最高エネルギー宇宙線(EHECR)の研究会
- 5月28日、最高エネルギー宇宙線(EHECR)研究会
- 6月4日、The 5th KEK Topical Conference
- 6月4日、EHECR 研究会 second circular
- 6月9日、特定・宇宙ニュートリノ第7回研究会のお知らせ、および講演募集
- 6月25日、宇宙ステーション利用計画ワークショップ
- 6月30日、高エネルギー宇宙物理連絡会 第2回研究会のお知らせ
- 7月12日、特定(A)「ニュートリノ振動とその起源の解明」研究成果発表会
- 7月25日、高エネルギー宇宙物理連絡会 第2回研究会
- 8月2日、Tamura International School on Neutrino Physics
- 9月10日、The first bulletin of Xenon01 Workshop
- 9月17日、ICRR 宇宙線共同利用成果発表会のお知らせ

その他のお知らせ；12件

- 4月16日、2001年度CRC選挙 推薦掲示板公開
- 4月24日、CRC選挙の投票呼びかけ
- 4月26日、CRC選挙の投票呼びかけ
- 5月8日、平成13年度CRC選挙の開票結果
- 5月14日、「CRC会員名簿」更新のお知らせ
- 6月12日、ICRR ニュース最新号(45号)のお知らせ
- 6月19日、宇宙線研・柏間の高速バス運行のお知らせ
- 7月2日、Bファクトリーの性能向上について
- 7月10日、訃報：宮村 修 教授 ご逝去
- 7月31日、乗鞍観測所の電話(Fax)番号変更
- 9月14日、ICRR ニュース46号(オンライン版)のお知らせ
- 9月17日、CRC総会のご案内

***** < 第 25 回 KEK 運協報告 > *****

(文責 村木 綏)

日 時 : 10 月 11 日 13:30 ~ 17:00

場 所 : KEK

報告事項

機構長報告 (菅原)

* LC 推進委員会 : 毎月開かれている。site study グループを発足させ、site 選びを始める。
米国の HEBAP の中間報告はできたが、欧州の方はまだ (11 月にはできるだろう)。

JLC はどこの国で作ることになるにしても世界として取り組むことになる。

* 機構評議会 : 次期機構長の選出に関して 9 月 25 日議論し、10 月 4 日機構長候補選出小委員会を開いた。委員は山崎、上坪、黒田、小林 (俊一)、西島の各メンバー。

更にオブザーバーとして機構運営委員会から選出された 4 名を含める。

1) 高度の先端性、国際性を有す KEK をリードできる人。 2) 年齢制限は廃止し、新たな機構長は 3 期までできるとする。 3) 学会誌等に広く推薦依頼をする。

4) 複数の候補者を 3 月までに機構運営協議員会に出してもらいたい。

5) 機構運営委員会と意見交換をして評議会で決める。

今後のスケジュールは 11 月初め小委員会を開き、推薦依頼を始める。

2 月締切。3 月運営協議会に意見の提出を求め、4 月初頭候補者を絞り込み、

5 月小委員会を開き、6 月協議会で決定する。

* プランは、積極的に大学の統合を勧めており、研究所長会議の task force で進めてきた一機関に一法人とずれがある。task force でも、分野別にまとめる策を考えると、例えば文系、理系研究所を一つにするとか、全体を一つにするという案が 11 月 6 日、7 日マックスプランク研やカリフォルニア大学から人を呼んで勉強会を開く。

Q : 素核研の所長はどう決めるのか ?

A : 次回の評議会でどういう形で運協の意見を聞くのか、2 月に議論する。

Q : 素核研所長は 2 期までと決めたことと整合性がとれないのではないのか ?

A : まず機構長から決めるのだから矛盾は生じないのではないのか。

Q : 評議会が年齢制限をとれといった理由は何か ?

A : 広く人材の推薦を求める際、年齢制限は良くないということだった。若い人が良いという当初の意見が、必ずしも全ての評議員に理解されていない。

Q : 素核研運協の役割は何か ?

A : 小委員会に出るオブザーバーが伝えるのではないのか。

素核研所長報告 (山田)

* 人事異動の報告があった。青木正治氏が阪大 AP へ、高柳雄一氏が広報室長に (P)。

* 6 月 2 日、8 月 31 日に開かれた機構運協の報告があった。

会長 : 黒川、副会長 : 広瀬。概算要求、教授人事、木原名誉教授の推薦、広報室の設置。

筑波キャンパス将来構想 WG ができた。

* 第 1 回研究計画委員会が 10 月 12 日に開かれる。

* 国際関係

6 月 27 日 ~ 30 日、OECD グローバルサイエンスフォーラムの第 2 回にコンサルタント会議

- に出た。第3回を11月KEKで開催する。組織、運営、見通しについてWGを作った。
- * CERN SPS 委員会に出席。LHCの後の加速器開発をどうするか将来計画への報告書を議論した。
 - * PS: slow extraction が始まった。
11月、12月テストビームの申込みが多く担当者が苦慮している。K2Kは1月から再開。装置の改良中。鉛ガラスカウンターを撤去し低エネルギーのミュオンが調べられるようにする。

協議事項

- PS 審査会の報告を了承した。 $KL \rightarrow \pi_0 \mu \nu$ の実験(E391a)を採択。
ハイパー核実験(E462)の延長採択 ほかテスト実験5件採択
- * PS 審査会(PS-PAC)の委員の改選をした。
所外(延与、森俊則) 所内(森松、吉村)の各氏。
- * 教官公募案を了承した。
P: JLCの実験室の整備等を担当する。
AP: ニュートリノラインの建設を推進する。
AP: 一次標的とビームモニターを担当する。
締切日はいずれも1月7日。任期は7年で建設期は1/2に数える。
- * その他
PSの予定を検討している。今のところ予定は2004年度一杯まで運転。
大ハドロン計画は2007年度末にスタートの予定。
PS利用者サイドの希望は、JHFの運転開始2年前までのPSの運転。

***** < 原子核専門委員会報告 > *****

CRC 会員各位： 正式の物研連の議事録は後ほど出されます。 これは個人的なメモです。
(文責 村木 綏)

日 時： H 13 年 11 月 6 日 13:30 ~ 17:00
場 所： 学術会議

報告事項

各研究所の報告

共同利用研、理研全体共通の問題として 10 %シーリングがきている。 また旧文部省関係では来年度から COE の予算が無くなり、いわゆる Top30 の財源に転化するため、新たな問題がでてきた。

高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研 (山田)

- * 日米、PS の予算が 10 %削減であるが、全体では 5 %減の見込みである。
- * 広報室が新設され、室長に NHK の高柳雄一教授が決まった。
- * 研究計画委員会がスタートし、次回には統合計画における素粒子・原子核研究の進め方について議論する。
- * 独法化への対応関係では、今まで言われていた一機関一法人という案から最近加速器科学学体をまとめる案も浮上してきた。
- * 研究関係では
BELLE の実験で小林・益川スキームで CP が破れていることが $5 \sim 7\sigma$ で確認された。
K2K の実験ではニュートリノ振動の徴候が見られる。 あと 2 倍 data をためる。

宇宙線研 (吉村)

- * 概算要求 1 位のテレスコープアレイは本予算では財務省には出なかった。
- * 一大学一法人という概念と全国共同利用という枠組みは矛盾している。 どう解決するのか、また大型計画の財務措置が大学付置研から概算要求として出せるかという問題がある。

—議論の中で、共同利用研の予算が文科省から大学へ出され、それがそのまま共同利用研にありてくるような財源のシステムが必要であるということが指摘された。

- * 全国共同利用研究所長会議でも物性研の福山氏を代表に文科省に要望書を出している。

RCNP (土岐)

- * 法人化関係では宇宙線研と同じ問題をかかえている。 12 月 3 日 RCNP 設立 30 周年記念行事が阪大で行われる。

JHF (永宮)

- * 50GeV 加速器用の電磁石 100 台を発注した。
- * 地元の東海村が JHF を建設することに同意した。 7 月下旬ボーリング調査が始まった。
- * 利用者協議会が確定した。
- * 物理学会で解説記事を出したが、次回の年会でも話をしたい。
- * 原子力委員会の下に加速器部会を立ち上げた。
- * 原研は核燃料サイクルと一緒にせよという話が出ており、総合科学協議会で話題になっている。

理研 (谷畑、石原)

- * 特殊法人改革の波が押し寄せている。種々の合理化が要求されている。
10 %シーリングのあおりで RIBF の二期工事が遅れるかもしれない。

研究コミュニティの報告

高エネルギー 加速器研究機構・素粒子原子核研（駒宮）

- * JLC 計画について次回又は次々回に物研連で報告をする。
- * ACFA が日本がホストとなって JLC を建設することを支持する声明を出した。

宇宙線（村木）

- * 地方大学から共同利用研の仕事に参加している人が多く、独法化の中でも地方大学の研究者の貢献が正当に評価されるようにしてゆく必要がある。
- * ICRR を中心とした TA 計画を最優先推進テーマとしてその実現に向けて努力しているが、各大学活性化のために南米高地を利用した宇宙線研究計画の検討に入った。

佐藤（文隆）提案

- * 2007 年が湯川先生、生誕百年なので記念事業をする必要がある。
—それに合わせて原子核国際会議を開くことはどうか（永宮）。
- * 2006 年は朝永先生、生誕百年でもあるので、記念事業をしてはどうか。

協議事項

- * 旧文部省と科学技術庁にまたがる研究についてのワーキンググループを作ってはどうかとの提案が佐藤委員長からあった。今まで物理学の分野では、共同利用研というものを作り、研究を進めてきたが、一機関一法人という大学独法化の概念と共同利用という概念は必ずしもマッチしない。この問題についてガイドラインを示す必要があるのではないが、そのガイドラインを作る委員会を作る提案。
- * 上記提案に関連して様々なレベル（次元）での問題点が指摘された。異なる大学に属する研究者間の共同研究がやりにくくなるのではないかという問題から始まり、大学と共同利用研間の問題、さらには旧文部省と科技庁に属していた加速器科学分野に関連した問題点と多岐にわたった。
- * 大学と共同利用研の間では、研究成果の提示方が問題であり、また大学付置の共同利用研としては、共同利用に関わる研究所の予算は大学への運営交付金とは別に予算枠を設定する必要がある。
- * 旧科技庁関係の研究所での研究は、今まで共同利用研ではないので今後オープンネスが問題になるのではないかとの指摘があった。
- * また文科省に加速器科学の審議会がないのは、まずいという指摘もでた。
- * その他、65 歳停年後の研究活動を補償する制度がないのが現状で、これを整備してゆく必要があるとの議論があった。

***** < 宇宙線研究所神岡施設の事故関係報告 > *****

平成 13 年 11 月 26 日
東京大学宇宙線研究所長 吉村 太彦

CRC 会員の皆様

新聞報道等で既にご承知のことと思いますが、東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子施設の所有するスーパーカミオカンデ実験装置内の光電子増倍管が大量破損する事故が起きました。諸般の事情により事故関係の報告が遅れて、皆様には無用のご心配をおかけすることになりましたことをお詫びします。11 月 22 日に神岡の現地にて第 1 回の原因究明等委員会が開催され、原因究明が一定の軌道にのりつつあります今、事故関連の報告をまとめて致します。

東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設では、スーパー神岡実験開始後、約 5 年を経過しましたが、本年 7 月中旬から、実験開始後に始めて、5 万トンの水を抜き、故障増倍管の交換作業を行っていたところであります。この改修工事も終わり、純水の注入が 8 月下旬から始まりました。事故当時、タンクは純水で全体の約 8 割満たされた状態になっておりました。因みに、水タンクは円筒形で、底面の直径約 40 メートル、高さ約 40 メートルでありまして、壁面、上面、底面に、光センサーとして、直径 50 センチメートル、合計 11,146 本の光電子増倍管が取り付けられています。去る 11 月 12 日（月）の午前 11 時、スーパーカミオカンデ装置内部で光電子増倍管に破損事故が起り、約 60 %が数秒間で破壊されました。事故当時 3 名が坑内で作業を行っていましたが、報告によると事故当時、轟音を伴う激しい揺れが感じられたとのことです。その後、装置から 8.8Km 離れた京都大学防災研究所の地震計がマグニチュード 0.3 の事故を捕らえていたことが判明しています。

事故直前まで順調にデータ取得が続いておりましたが、事故直後、点検のために増倍管の高電圧が切られました。事故の約 40 分後に、タンク上面を開けて、ゴンドラで水面に降り研究者が状況を目視しました。また、後に水中カメラを降ろして調べた結果によりますと、内水槽の合計損壊数は 6661 本です。信号確認による破壊本数は 6779 本です。また、外水槽アンタイ増倍管の損壊数は 1017 本（全 1895 本）です。残る増倍管本数が正常に作動していることは、宇宙線ミュオンの観測により証明されています

事故以降、装置内水面低下が観測されています。3.7 トン/時に相当する流失量です。水漏れに関連して問題になるのは、事故後のタンク内の水質であります。3 社による結果では、クロム、マンガ、6 価クロムなどは計量限界値未満、環境基準値未満です。

現地対策班のその後の調査によりますと、最初の衝撃発生時の増倍管が 9 個の範囲内でほぼ同定されています。この増倍管はタンク底面の隅に近いところにあります。このうちの 1 個から爆縮が起こった可能性が最も高いと考えられます。スーパー神岡での通常の現象頻度は 10 Hz 程度ですが、データ取得コンピュータからの情報によると、事故直後に信号頻度が 100 万 Hz 以上に上がり、計算機のメモリ限界を超え、詳しい衝撃伝播のデータは残っていません。（頻度上昇後、30 ミリ秒のみ断片的なデータが存在します。）一方、衝撃波伝播に関する、ある簡単なシミュレーションによりますと、隣りあう球への爆縮の伝播に約 10 ミリ秒かかるようです。従って、観測データから初の爆縮の情報は得られましたが、衝撃波の伝播の情報は得られませんでした。

最初の球が破壊した原因の推測として次のようなことが考えられます。

- 1 . 改修工事中に発砲スチロールを底面にのせて作業して加重をかけたため、ストレスがかかった。
- 2 . 水を完全に抜いた状態で、地下水からの圧力で底面ステンレス板が破損し水が噴出した。

そのため、原因球付近のステンレス板が数cm跳ね上がった。
しかしながら、事故原因の最終的特定は現在のところできておりません。

今後の原因究明の方針として、衝撃波シミュレーションと衝撃テストを行いたいと考えております。衝撃テストは排水する前、今後1月以内に実施するのが効率的です。

以上が事故報告と11月22日現在までの原因調査の概略です。今後、原因究明等委員会での配布資料と議事録をホームページ等で公開することになっておりますので、ご関心のある方はご覧になってください。

最後に、一言、述べさせていただきます。

ニュートリノ物理に画期的な成果をあげたスーパー神岡実験が少なくとも当分の間、続行できなくなりました。当面の課題は、厳正で透明性のある客観的な事故原因の特定であり、早期の解明に向けて微力ながら全力を傾ける所存です。世界をリードするニュートリノ実験を絶やすことがないように、今後とも皆様方のご支援を賜りますようお願いいたします。また、原因究明に関わる学問的なご助言を頂ければ幸いです。

CRC Homepage 速報-256 , CRC News No.314 ; 2001年11月29日配信

***** < (会報) 宇宙線研神岡事故に関して > *****

CRC 会員各位

2001年11月29日
CRC 実行委員長 村木 綏

本日宇宙線研実施専門委員会で吉村東大宇宙線研所長から、スーパー神岡実験に関する事故の詳細な報告を受けました。現在、神岡実験グループでは、事故原因の徹底的な解明と、それに対する対応策が練り上げられつつあることを知りました。これらのプロセスを踏まえた、実験の早期再開の努力を強く支持します。

CRC Homepage 速報-271 , CRC News No.329 ; 2002年01月23日配信

***** < KEK 素核研 運協懇談会 速報 > *****

村木 綏

1月22日KEKでありました素核研運営協議会で1月17日開かれまして今後の大学共同利用機関の在り方等に関する懇談会の報告が菅原機構長からありました。

共同利用機関をまとめて一法人にするという統合法人案(海部案)が有力な案として議論されたようですが、一機関一法人案も捨てがたく(菅原案)、まとまらなかったようです。今後は早急に学術審議会を開きそこで審議され、3月末までに結論をだすだろうとのことでした。

なお大学付置の共同利用研の処遇については、議論はされたものの、何も決まっていなかったこととです。COE 研究員等の今後を含む、KEK 運協の詳細な議事録は後程配信します。

***** < 素核研 (KEK) 運協報告 > *****

(文責: 村木 綏)

日 時: 1 月 22 日 13:30 ~ 17:00 至る KEK

報告事項

山田所長報告

- * 人事 羽澄さん着任 (阪大 → KEK) 大川さん転任 (KEK → 広島大)
- * 概算要求内示 5%減、PS 減、B は昨年並み、統合計画の建設費増、50GeV トンネルが、前倒しで基盤整備費 92.7 億円が補正予算で認められた。
- * 諸委員会報告

機構の運協が開かれ、法人化のことが議論された。
B-factory 推進委員会が開かれ輝度増光が議論された。
第一回研究計画委員会が開かれ熱心な議論がされた。次回には統合計画に
置ける素粒子原子核研究の進め方を検討してもらう予定。
総研大でも法人化の議論をしている。

- * COE 研究員 大学共同研究機関分に関しては現状を維持できることがわかった。

菅原機構長報告

- * 法人化について報告があった。2 月 1 日の機構の運協で検討、ユーザー、所員にも検討してもらう。3 月末に最終版をまとめる。

今後の大学共同利用機関の在り方等に関する懇談会では、共同研究に重点を置く
(仮に COE 型とよばれているタイプ) か共同利用に重点を置くか (共同利用型) が争点
になっている。共同利用型の一機関一法人を主張しているのは KEK だけである。全体が賛
成するコンセンサスに至らなかった。科学技術・学術審議会ですらに審議するとの結論。
KEK 側は、異分野の研究者コミュニティ間に日常的な交流があつて、そこから互いの研究
を評価し合える間柄になっていないと全機関一法人 (統合法人) は成り立たないと考える。
統合法人にすると運営が逆にコミュニティー間の鋭い対立に発展する危険性が憂慮される。

その案に対して大方の研究所は、大型共同利用施設を中心に伸び続けるという方針は
20 世紀型の共同利用であつて、21 世紀型は「共同利用」「共同教育」にも軸足を置いた
COE 的な場として発展を図るべきであるという意見である。この場合予算の配分に研究者
が関与したいというところに大きな特徴がある。この問題に決着がついてから大学付属の
共同利用研の問題が議論されるのではないだろうか。

協議

- * 数値計算で AP を、JLC で AP を、ベルで A を公募することが了承された。
- * 兼ねてからの人事交流 WG からの提案であつた助手 6 名に任期付きポストを設け、訓練して
評価してから任期無しのポストに付けることを考えてきた。しかし法人化の議論が進んで
おり、任期制についても物構研では全ての position に任期を付けることが議論されている
など世の動きが激しいので、さらに study をしたいとの提案があり、まず次回の運協で検討
することにした。

***** < (会報) 核専委・物研連に対する申し入れ事項 > *****

CRC 会員 各位

2002 年 2 月 13 日
CRC 実行委員長 村木 綏

きたる 2 月 20 日、21 日に開催されます、核専委、物研連 に対して以下の申込をすることが
2 月 4 日の CRC 実行委員会です決まりましたので、お知らせします。

— 核専委・物研連に対する申し入れ事項 —

CRC 実行委員会では、法人化に際して大学付置の共同利用研究所の在り方について議論しま
した。その結果、大学付置共同利用研究所が法人化後もその機能を十分に発揮するためには、
次のような事項が実現されることが強く望まれるとの結論に達しましたので申し入れます。

- (1) 共同利用研究所が行う共同研究のための資金や、大型科学推進資金の設置。
- (2) NASA や米国の高エネルギー研究等におけるように、大学または研究機関へ共同研究推進
のための資金等を直接配分すること。わが国におきましてもこの様な方式が実現すれば、
各大学・機関にいる優秀な研究者の力を共同研究等に結集できるので大変望ましいと考え
ます。これはまた各大学のレベルの向上に大きく貢献すると思われま。
- (3) 各大学の研究者が共同利用研究所を利用する場合、共同利用研究が効果的にできる様に、
研究振興局の fund の設置が強く望まれます。例えば、今まであった員等旅費の項目が
法人化後も継続されることや、共同利用研究費の大幅増額等が強く望まれます。

物研連におかれましては学会会議等を通じ積極的に上記のような弾力性のある資金の設立を
働きかけていただくよう要望します。

宇宙線研究者会議 実行委員会

***** < 物研連報告 (要旨速報) > *****

おことわり

(このメモは、物研連の議論の速報です。 必ずしも正確でない点が含まれているかも
知れません。この点を考慮して、お読み下さい。) 文責 村木 綏

日 時 : H14 年 2 月 21 日 10:00 ~ 16:00

報告事項

IUPAP 委員会報告

- * 開発途上国を担当するコミッションの目的がはっきりしない。次の日本代表を交渉中。
- * ベルリンの general assembly が秋開催される。次期 IUPAP 委員会メンバーが投票で決まる。
投票権は拠出金に依存し、日本は 4 名相当の投票権がある。日本からの各代表の推薦は 1~2
ヶ月以内にする。

核専門委員会報告（矢崎）

- * 神岡事故の報告を戸塚委員から受け、スーパーカミオカンデの再建についての要望書を物研連に出すことにした。
- * COE の外国人研究員のポストが急に無くなり、国際的な信用を落としているので、何らかの声明を出してはどうかとの提案が RCNP の土岐所長よりあった。
- * 次期高エネルギー グループの研究計画案として JLC を次回の物研連で出すとの報告が駒宮高委員からあった。
- * 法人化にあたって KEK の在り方（一機関一法人が望ましいとしている）について、物研連としても考慮してもらいたいとの要望が山田委員長よりあった。
- * JHF の運営方針についての task force の厚い報告書の説明が今井委員長よりあった。

物性委員会報告

- * 中性子研究推進に関する提言があった。

物性一般委員会報告（兵頭）

- * 科研分科細目（物性学）改善の報告があった。
- * 物理教育小委員会では、ユニークな教育をしている大学を訪問して、その訪問記を物理学会誌に発表している。

学術会議報告（佐藤文隆委員長）

- * H15 年度科研費審査員候補（2 倍推薦する）を 5 月末までに推薦する必要がある。
- * 物性・物性一般の受け持ちが代わる。
- * 総合科学会議の中に日本学術会議の在り方に関する専門調査委員会ができている。物理から益川さんがでている。
- * 吉川会長の改革案は会員を 2500 名程度に増やす。そしてその中からワークベースで 210 名程度任期 3 年の執行委員会を作る案である。この執行委員会が現在の学術会議の会員に相当し、2500 名の会員は研連に相当する。（研連は無くなることもありうる。）
上の様な条件の基で、第 19 期の会員を選出することになる。4 月中旬の総会で検討される。

議題

- (1) スーパーカミオカンデの完全復旧についての声明を物研連会長名で出すことを了承した。
- (2) 第 4 部の研連の再編案について佐藤文隆委員長から報告を受けた。物研連は現在の定員 75 名から 67 名に減る予定。あちこちの研連から集めた 58 名を、理学振興とか、科学と社会、ゲノム科学、環境理学、惑星科学、学術情報発信の新研連創出に使用する案が示された。
- (3) 「共同利用研究」の在り方を研究するワーキンググループを作った。
主旨は、「共同利用研」が構想された当時とは研究資源や国際環境は大きく変化したが、この制度とその精神は日本の物理学の研究環境に深く浸透している。したがって、この間の事態の推移を考慮しても、この制度は研究上のネットワーク形成、大型施設の共同利用、国際交流、孤立した研究者の支援など、今後維持発展させるべき多くの重要な機能を持っている。現在進行している種々の制度変更の中でこうした優れた機能が損なわれてはならないと考える。以上の様な認識のもとに、物研連として次の様な課題について問題点を分析・整理して、研究者および関係筋に注意を喚起することにある。上記を考える委員会を作った。
メンバーは素核からは高崎（史）、吉村両氏が委員で、政池、長島両氏にも加わってもらう。
- (4) 物理一般の中に分子・原子・光物理学（AMO）を推進・検討する小委員会を作ることを了承した。
- (5) 突然起こった COE 外国研究員削減に関して物研連として議論した結果、一番影響を受けた RCNP と基研の所長らが声明を文科省に出すのがよいのではないかととなった。
- (6) 法人化にあたって KEK の在り方について議論した。
法人化にあたっては高エネルギー 機構（KEK）の特殊性を考慮して欲しいとの内容であった。検討の結果、今回は核専委員長の声明として提案し、次回物研連で物性分野も受け入れられる様な内容にして提案してもらうことになった。
今回は 4 月 24 日、25 日に核専委物研連を開くことになった。

C R C 選 挙 公 示

平成 14 年 2 月 4 日の実行委員会の決定に基づき、CRC 選挙を下記の要領で行ないます。

2002 年度 CRC 実行委員会 委員長 及び委員の選挙

(投票方法) ⇒ (委員長 1 名、委員 6 名を連記)

(方 法)

- (a) 本選挙の **投票** 〆 切日は 平成 14 年 **4 月 10 日 (水)** です。
(当日消印有効)
- (b) この連絡誌の最後のページにある投票用紙で「**郵送投票**」するか、又は、
3 月 28 日頃に送られる電子メール投票用紙で「**電子メール投票**」をして下さい。
郵送投票と電子メール投票とを二重に投票した方は、郵送投票を優先させます。
- (c) この連絡誌に掲載されている「**CRC 選挙人名簿**」を参考にして選出して下さい。
- (d) **実行委員会からの呼びかけ**。
(1) 適正な年齢構成を実現させるために、「**若い人**」を選んで頂けることを期待します。
(2) 自ら立てた計画の遂行に責任の持てる年齢の方が望ましい。
(3) 選挙を盛んにするために、会員間で推薦をすることも歓迎する。
(この詳細は E-mail で)

2002 年度 CRC 実行委員会 委員長 及び 委員の選挙

投票方法 ; 委員長 1 名 、 及び 委員 6 名 を投票用紙に連記する。

(合計 7 名以下の記名も有効)。

- 規定 ; (a) 当選者数は、得票数の順に委員長 1 名、委員 12 名 とする。
(b) 実行委員長及び実行委員の任期は 1 年とする。
(c) 実行委員長は、同一人が 3 年連続してなる事はできない。
(d) 実行委員は、前年度委員が 6 名を越えない(新委員長は除く)。
(e) 同一機関から選ばれる実行委員の数は 2 名以内とする。
(f) 委員長に投票されて落選した方の委員長得票数は、委員得票数に加算される。
(g) 同票の場合は本人に連絡の上、くじ引きとする。

***** << CRC 選挙人名簿 >> *****

(2002年4月1日現在)

長期在外者、OBOG 会員、通信会員、長期会費滞納者は含まれていない。

- (小樽商科大学) 杉之原立史
 (函館北高校) 伊藤博史
 (青森大学) 藤井正美
 (弘前大学) 雨森道紘 市村雅一 川口節雄 倉又秀一 小西栄一 高橋信介
 南條宏肇
 (岩手大学) 矢作直弘
 (東北大学) 石原賢治 井上邦雄 鈴木厚人
 (宮城教育大学) 神田展行
 (山形大学) 郡司修一 櫻井敬久
 (福島大学) 石田喜雄
 ((株)加速器分析研究所) 小林紘一
 (新潟大学) 檀上篤徳
 (茨城県立医療大学) 村石 浩
 (茨城大学) 柳田昭平 吉田龍生
 (高エネルギー加速器研究機構) 石田 卓 内山 隆 大山雄一 小川雄二郎 上窪田紀彦
 河辺征次 佐藤伸明 鈴木敏一 中村健蔵 山田作衛 山本 明
 (宇宙開発事業団) 松岡 勝
 (産業技術総合研究所) 寺田聡一
 (獨協医科大学) 大森理恵 野上謙一
 (宇都宮大学) 太田 周 小澤俊介 佐藤禎宏 堀田直己
 (足利工業大学) 勝部修一 新居誠彦
 (群馬工業高専) 柳田友士
 (ぐんま天文台) 奥田治之
 (芝浦工業大学) 笠原克昌
 (放射線医学総合研究所) 内堀幸夫 北村 尚 小井辰巳
 (千葉大学) 吉田 滋
 (埼玉県立大学) 柴村英道
 (埼玉大学) 井上直也 宇津木敏人 有働慈治 中村市郎 水谷興平
 (理化学研究所) 榊 直人 清水裕彦 高野元信 高橋一僖
 (日本大学) 小倉紘一 加藤正人 境 孝祐 成田信男
 (東邦大学) 渋谷 寛
 (東京情報大学) 渡辺 正
 (東京理科大学) 鈴木英之
 (早稲田大学) 菊池 順 道家忠義 長谷部信行 林 孝義 岬 暁夫
 (東京工業大学) 石野宏和 荻尾彰一 垣本史雄 片岡 淳 櫻澤幸司 原 敏
 守谷昌代
 (日本エヌ・ユー・エス) 鈴木政時
 (立教大学) 関口宏之 田村直美 柳町朋樹 吉森正人
 (立教新座高等学校) 綾部俊二
 (青山学院大学) 小林 正 柴田 徹 晴山 慎 横井 敬
 (明星大学) 佐久山博史 鈴木 昇
 (創価大学) 青木 宏
 (玉川大学) 永田勝明
 (昭和薬科大学) 松林哲夫
 (工学院大学) 加藤 潔

(仁科記念財団) 鎌田甲一
 (東京大学) 新谷昌人 安東正樹 川崎雅裕 河邊径太 佐藤勝彦 坪野公夫
 寺沢敏夫 身内賢太郎 三尾典克 蓑輪 眞 森脇成典
 (東京大学宇宙線研究所) 石塚正基 伊津耕平 伊藤好孝 榎本良治 大内達美
 大沢昭則 大西宗博 大橋正健 大林由尚 奥村公宏 梶田隆章
 片桐秀明 金行健治 亀田 純 岡田 淳 河内明子 黒田和明
 小汐由介 櫻井信之 佐々木真人 塩沢真人 塩見昌司 鈴木洋一郎
 鈴木理映子 瀧田正人 竹内康雄 竹田成宏 土屋兼一 土屋晴文
 手嶋政廣 戸塚洋二 中畑雅行 林田直明 福来正孝 福島正己
 福田善之 本田守広 間瀬圭一 眞子直弘 三浦 眞 三代木伸二
 森 正樹 森山茂栄 山田秀衛 山元一広 山本常夏 横山千秋
 吉村太彦
 (大学評価・学位授与機構) 荒船次郎
 (国立情報学研究所) 上岡英史 西澤正己
 (国立天文台) 川村静児 佐藤修一 高橋竜太郎 辰巳大輔 藤本眞克 水本好彦
 (総務省通信総合研究所) 篠野雅彦
 (電気通信大学) 植田憲一
 (上智大学) 伊藤直紀
 (都立航空工業高専) 齋藤敏治
 (東京水産大学) 大橋英雄
 ((株)クボタ) 原田宏一
 (宇宙科学研究所) 長瀬文昭 藤原 顕 山上隆正
 (神奈川大学) 佐々木孝雄 白井達也 立山暢人 田村忠久 鳥居祥二 日比野欣也
 槇野文命 吉田健二
 (横浜国立大学) 片寄祐作 柴田槇雄
 (海洋科学技術センター) 中本正一郎
 (東海大学) 中瀬友和 西嶋恭司
 (神奈川県立衛生短期大学) 古森良志子
 (湘南工科大学) 杉本久彦 平良邦夫
 (日立製作所) 佐藤寿樹
 (山梨大学) 川隅典雄 津島逸郎 橋本勝巳 本田 建
 (山梨学院大学) 内藤統也 原 忠生 三井清美
 (松商学園短期大学) 鈴木尚通
 (信州大学) 木舟 正 宗像一起 安江新一
 (福井大学) 宮島光弘
 (福井工業大学) 小早川恵三 柴田進吉 永野元彦
 (名古屋大学) 池内 了 さこ隆志 佐藤修二 歳籾利行 中村光廣 丹羽公雄
 藤井善次郎 星野 香 増田公明 松原 豊 宮西基明 村井忠之
 村木 綏 山下広順 湯田利典
 (核融合科学研究所) 川村孝弼
 (愛知淑徳大学) 安野志津子
 (愛知県立明和高校) 今井和貴
 (名古屋女子大学) 小島浩司 藤本和彦
 (愛知教育大学) 牛田憲行
 (中部大学) 柴田祥一 龍岡亮二 宗像義教
 (岐阜大学) 田阪茂樹
 (朝日大学) 森下伊三男
 (西山短期大学) 五十嵐眞之
 (京都薬科大学) 小池千代技
 ((株)ピューテック) 由良 剛

(京都大学) 浅原明広 櫛田淳子 窪 秀利 谷森 達 舞原俊憲 永吉 勉
 (同志社大学) 醍醐元正
 (近畿大学) 河島信樹 小西健陽 川本 勝 玉田雅宣 千川道幸 辻 勝文
 林 浩一 御法川幸雄
 (大阪市立大学) 川上三郎 田中秀樹 高橋 保 寺本吉輝 中川道夫 野中敏幸
 林 嘉夫 吉越貴紀
 (大阪市立汎愛高校) 佐々木隆
 (大阪府立大学) 小川英夫
 (大阪府教育センター) 岡部久高
 (奈良産業大学) 政池 明
 (神戸大学) 戎 健男 野崎光昭 向井 正
 (神戸女子短期大学) 浅木森和夫 水島賢太郎
 (神戸常盤女子高校) 中西祥彦
 (甲南大学) 梶野文義 川田和正 坂田通徳 佐藤文隆 林 清一 山本嘉昭
 ((株)神菱システム) 嶋 正仁
 (高輝度光科学研究センター放射光研究所) 川島祥孝
 (兵庫県立姫路別所高校) 林 敏一
 (岡山大学) 和田俱典
 (岡山理科大学) 伊代野淳 蜷川清隆
 (岡山商科大学) 中塚隆郎
 (広島国際大学) 富永孝宏
 (作陽短期大学) 井原 零
 (愛媛大学) 花山洋一 吉井 尚
 (高知大学) 大盛信晴 佐々木宏 中村亨普 普喜満生
 (宮崎大学) 高岸邦夫
 (鹿児島大学) 木下紀正
 (無所属) 伊藤謙哉 伊藤信夫 今枝国之助 太田正臣 岡野眞治 萩田直史
 大橋陽三 覚道雄次郎 金子達之助 北村 崇 北村正丞 久下 章
 楠瀬昌彦 小森博夫 近藤一郎 崎村雅彦 鈴木栄輝 平良俊雄
 高橋八郎 棚橋五郎 千葉敏躬 中本 淳 長島一男 丹生 潔
 西川大輔 西村 純 平島 洋 町田 勝 三浦靖子 三宅三郎
 村上一昭 渡辺博之

2002 年度 CRC 選挙 投票用紙 (郵送用)

----- 切り取り線 -----

(a) 2002 年度 CRC 実行委員会 委員長および委員 投票用紙

	氏 名
委 員 長	
委 員	
委 員	
委 員	
委 員	
委 員	

空白欄があっても有効です。

これを、『投票用紙 封筒』に入れて、封をして下さい。

----- 切り取り線 -----

(b) 2002 年度 CRC 選挙 投票用紙 受取票

これに、貴方のお名前を記入して、

「投票用紙封筒」と共に『返信用封筒』に入れて、郵送して下さい。

投票者氏名 ; _____

----- 切り取り線 -----

発行：宇宙線研究者会議

〒277-8582 千葉県柏市柏の葉 5-1-5

東京大学宇宙線研究所 CRC 事務局 宇宙線研支部 林田 直明

Tel. 04-7136-5117, Fax. 04-7136-3131

E-mail: crejimu@icrr.u-tokyo.ac.jp

責任者：CRC 実行委員長 名古屋大学 STE 研 村木 綏